令和元年度

年　次　報　告　書

分冊：教員の年間活動報告

神　戸　常　盤　大　学

神戸常盤大学短期大学部

目　次

頁数

１．保健科学部・医療検査学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２～２６

２．保健科学部・看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７～５８

３．教育学部・こども教育学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９～８０

４．短期大学部・口腔保健学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・８１～９６

５．短期大学部・看護学科通信制課程・・・・・・・・・・・・・・９７～１０５

１．保健科学部　医療検査学科 個人年間活動報告書

教員名	坂本 秀生	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	医療検査学科長、ゲノムサイエンス研究ユニット責任者				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	M科：臨床検査入門、医学概論、検査機器総論、分子細胞生物学、医療英語、細胞培養演習、BLSキャリアパスI、BLSキャリアパスII、文献講読、遺伝子工学、遺伝子工学演習、先進医学検査学、医療検査サプリメント演習I、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II、卒業研究 N科：国際保健医療活動I、国際保健医療活動Ⅱ O科：遺伝子と再生医療				
担当科目コマ数	10.27				

本年度の課題

医療検査学科運営をスムーズにする。
臨床検査技師教育内容見直しに関し、より良い内容となるよう取り組む。

本年度の目標

学科教員との情報交換を密に行う。
臨床検査技師教育内容見直しに関する的確な情報収集を行う。

主な活動内容

1）教育活動

欠席や遅刻が多い学生、成績不審者に対して個別面談及び電話やメールを通じた指導を行った。大学院進学希望の学生に対して早めに個別面談及び、学習指導を行い神戸大学大学院へ２名の進学者となった。

2）研究活動

研究テーマ： Cablesの機能解明、POCTを効果的に用いる

研究の現状：：「Cablesの機能解明」ではCables発現による、がん抑制の仕組みを解明するためプロモーター機能に注目し、プロテインキナーゼC活性化が関わることを確認した。POCTに関しては、使用者と管理者の仕組みが大事であることから、それぞれの認定制に貢献した。

学会発表（　6回）　論文（　6編）　著書（　0冊）

3）社会的活動等

日本臨床検査学教育協議会　副理事長、アメリカ臨床病理学会　国際資格 日本諮問委員会 委員長、国際臨床化学連合 C-IDL 委員、日本臨床化学会 理事　国際交流委員長、日本臨床検査医学会　評議員、日本臨床検査自動化学会　評議員　POC 技術委員会　幹事、日本臨床衛生検査技師会 国際 WG 委員、兵庫県臨床検査技師会　理事、厚生労働省　臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会.　構成員

今後の課題
円滑な学科運営 新たな臨床検査技師学校養成所指定規則に向けた準備

教員名	栗岡　誠司	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試副委員長，個人情報保護委員会委員				
クラス担任	1年全体（Aクラス）	クラブ顧問	ｻｲｴﾝｽﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、弓道、陸上		
担当科目名	検査入門実習，基礎化学，現代社会と化学，基礎有機化学，有機化学，分析化学実習，大学道場ミニゼミＢ，無機化学，物理化学，無機物理化学基礎演習，卒研				
担当科目コマ数	8.4				
本年度の課題					
・クラウド型教育支援システム manaba を使った学修支援活動の実践 ・e-learneng システムを使った学修支援活動の研究 ・入試委員として，臨床検査技師についての高校への啓発					
本年度の目標					
・基礎化学から、有機化学および無機化学へ，更に国試対策まで連動させ、能動的学修のできる化学好きの学生を増やす。 ・学生の社会貢献を図り、コミニケーション能力を育成するために，サイエンスボランティア活動への学生の参加を促す。					
主な活動内容					
1)教育活動；初年次教育の充実 2)研究活動 研究テーマ：１）クラウドやスマホアプリを使用しての学修の可能性の検証 ２）サイエンス啓発活動における効果の検証 研究の現状：卒論生対象に検証中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（１回）　論文（１編）　著書（　　冊） 3)社会的活動等 ①　文部科学省ＳＳＨ運営評価委員 ②　New Education Exp.東京会場及び大阪会場にて教員・マスコミ関係者対象に講演 ③　明石市教育委員会教育委員(教育長職務代理者) ④　兵庫県教育委員会の特別非常勤講師及びサイエンストライやる事業講師 ⑤　大阪市内の区及び大阪府内の市の主催の教員研修講師					
今後の課題					

・クラウド型教員支援システムmanabaの活用方法の充実 ・e-learnengシステムを使った学修支援活動の研究 ・卒業研究、化学の授業（基礎化学・有機化学・無機化学・分析化学実習など）を通じての能動的学修が行える学生の育成

教員名	安藤 啓司	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	健康保健センター長、就職委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	生理機能検査学ＩB、生理機能検査学ⅡA、生理機能検査学実習Ⅰ、臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅱ、生理機能検査学実習Ⅱ、検体採取安全管理演習、対人援助技術演習、臨床病態学演習Ⅰ、臨床病態学演習Ⅱ、総合医学検査演習、総合医学検査特論				
担当科目コマ数	10.27				

本年度の課題
カリキュラム変更に対応して講義内容を取捨選択する.
本年度の目標
担当科目に関して本学の学生に与えるべき知識を整理し、それに対応した講義を展開する。
主な活動内容
1）教育活動 病態学関連の知識をリフレッシュするため多数の関連図書を入手し講義に臨んだ。 2）研究活動 研究テーマ：歩行・走行時の重心動揺 研究の現状：３軸加速度計を腰部に装着し、様々な荷重の下にランニングマシン上で歩行させて重心動揺を測定した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 著書（１冊）　改訂第5版　臨床病態学　「感覚器・精神疾患」 p372～377 3）社会的活動等 日本生理学会　評議員
今後の課題
講義内容をさらに充実させる。ゼミ生とともに周期的な時系列データの解析方法に理解を深める。

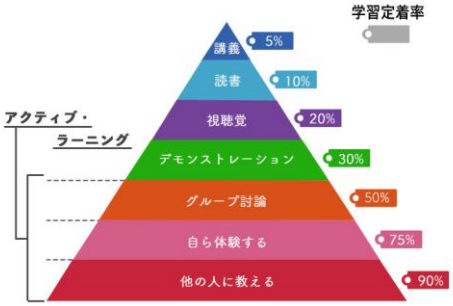
教員名	畠　榮	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員長、カリキュラム委員長、危機管理委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	検査入門実習、医学概論、臨床病理検査学、臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病検査学実習Ⅱ、細胞検査学演習、臨床検査学演習、検査リスクマネイジメント論、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習、組織学実習、臨床検査サプリメント演習Ⅰ、臨床検査サプリメントⅡ				
担当科目コマ数	14.23				

本年度の課題

・第 66 回臨床検査技師国家試験の合格率が過去最低であったため、
特に M4 年の成績不振学生の指導体制の確立ならびに国家試験合格率の向上
・細胞診養成課程の高い合格率の維持
・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実
・組織学・臨床病理検査学での Sub Notebook の有意義な活用法の検討

本年度の目標

・臨床検査技師国家試験合格率の向上
・細胞診養成課程の合格率 100%を一番の目標とする。
・**ラーニングピラミッドを応用した、アクティブラーニングを用いた授業**
学習者である生徒が受動的となってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法を取り入れた授業の確立



ラーニング・ピラミッド

主な活動内容

1）教育活動

・細胞診養成課程の合格率100%の維持を目的とした教育改革：
iPadを用いた細胞診教育システム
細胞所見を利内するためには、どのような病理組織所見であるかを理解することが重要と考えられる。そのために病理組織所見との対比ができる症例の充実
・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実：
ラーニングピラミッドを応用した、アクティブラーニングを用いた授業
クラウドを用いた、病理検査学および細胞診断学講義用ファイルの一括管理および臨

床病理検査学で使用する講義に即したSub Notebookの編集
・臨床現場で経験した病理肉眼像および病理組織画像を用いた教育：
臨床現場で蓄積した実際の症例を用いた教育

2) 研究活動
研究テーマ： 体腔液による悪性中皮腫の診断基準の作成
研究の現状： 石綿・中皮腫研究機構・日本肺癌学会での『中皮腫取扱い規約 第1版』の出版を行うことにより、日本での中皮腫細胞診診断に大きく寄与できる。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 16 回 講演5回および症例検討会を含む）
論文（ 4編） 著書（ 1 冊 共著）

3) 社会的活動等
・独立行政法人環境再生保全機構 石綿健康被害救済部 中皮腫細胞診実習研修会 講師および実務委員
・中皮腫細胞研究会 副代表幹事
・日本臨床細胞学会 功労会員
・LBC (Liquid based cytology) 研修会 in 滋賀 実行委員長
・日本臨床細胞学会岡山細胞検査士会 幹事

今後の課題

学内教育 ：4年の成績不振学生の指導体制の確立ならびに国家試験合格率の向上
細胞診養成課程の合格率100%を一番の目標とする。
「臨床検査技師国家試験対策マスタードリル」の完成と、それを用いた教育
社会的活動：独立行政法人環境再生保全機構中皮腫細胞診実習研修会で講師として細胞検査士の診断レベルの向上
・細胞検査委の卒後教育および細胞検査士育成に用いる著書の執筆

教員名	井本 しおん	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書・紀要委員会委員長、就職委員会委員長				
クラス担任	M2Bクラス	クラブ顧問	イムノヘマトロジー		
担当科目名	科目責任者：血液学、血液検査学、血液検査学実習I、血液検査学実習II、臨床病態学II、臨床病態学演習I、臨床病態学演習II、医療安全 分担：人体のふしぎ、BLSキャリアパス、検査リスクマネジメント、 総合医学検査特論				
担当科目コマ数	12.17				
本年度の課題					

・国試と就職を両立させるため国試対策委員会や卒研担当教員との連携を強化する ・研究成果を英文で論文発表する
本年度の目標
①　研究成果を英文で論文発表する ②　学生達の臨床血液学、臨床病態学の学力を高め、国試合格率をさらに改善する
主な活動内容
1）教育活動 ・臨床血液学：M2血液検査学では、講義内容を重点項目に絞り、単元ごとに「まとめ」と自習問題を提示した。M3血液検査学実習I,IIでは、M2で講義できなかった項目を実習前講義での解説と課題レポートで補うよう工夫した。 ・臨床病態学：Common diseases の理解に重点を置きつつ、国試に出題される疾患を過去問を例示しながらわかりやすく解説するよう努めた。 ・国試対策：特論では、正答率の低かった模擬試験問題の解説、類似問題の演習、共通する弱点を補強する講義の3本立てで学習意欲を高めて実力を育成するよう心掛けた。 ・就職指導：4年生では模擬試験の成績と見比べ、個別相談を繰り返し実施して国試勉強と就職活動が両立できるよう配慮に努めた。 2）研究活動 研究テーマ：　単球・マクロファージと鉄代謝 研究の現状：2019年度科研費に採択され、これまでの研究成果を英文論文発表した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　１回）　論文（　1編）　著書（　　1冊） 3）社会的活動等 兵庫さい帯血バンク理事、兵庫県合同輸血療法委員会委員など
今後の課題
本年度末で定年退職

教員名	林 伸英	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員長、遺伝子組換え実験安全委員				
クラス担任	医療検査学科２学年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床化学検査学Ⅰ、臨床化学検査学Ⅱ、臨床化学検査学実習、臨床検査学演習、臨床検査入門、医学概論、チーム医療論、検体リスクマネジメント論、医療安全、総合医学検査特論、総合医学検査演習、大学道場miniゼミ、卒業研究				
担当科目コマ数	9.97				
本年度の課題					

１．学生にわかりやすい授業・実習を行う。 ２．研究活動の充実：論文作成（神戸大学病院との共同研究）
本年度の目標
１．学生の興味を引くわかりやすい授業・実習を行う。 ２．臨地実習が円滑にできるよう力を注ぐ。 ３．論文の受理（神戸大学病院との共同研究）を目指す。
主な活動内容
1） 教育活動 　臨床化学検査学Ⅰ,Ⅱは、国試対策を意識した教科書にそった授業が必要と考えられる。その反面、平坦な授業とならないように動画を使ったプレゼン等を挟み込んで学生が興味を持てるような講義になるように努めた。さらに復習の時間を短くして、授業の予定した到達箇所までの授業の進行のスピードを一定にし、わかりやすく説明が維持できるようにした。 2）研究活動 研究テーマ：抗DFS-70抗体の研究（神戸大学医学部附属病院との共同研究)を行い、来年度に継続していく。 研究の現状：これまでの研究の成果を筆頭研究者として、原著 Prevalence of anti-DFS 70 antibodies in healthy individuals and patients with antinuclear antibody-associated autoimmune rheumatic diseases in Japan. を投稿中である。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（２回）　論文（２編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 学会活動：日本臨床検査医学会 評議員、生物試料分析科学会 評議員 　　査読：医学と薬学 ４遍
今後の課題
１．学生が興味を持つような授業内容の工夫をさらに検討する。 ２．研究活動を継続する。：論文作成（神戸大学病院との共同研究）

教員名	栃倉 匡文	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生部長、学生相談室委員、健康保健センター委員、卒研委員				
クラス担任	３年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療検査学科：公衆衛生学I、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学実習、医動物学・同実習、労働衛生学Ⅰ、免疫検査学、免疫検査学実習、検査リスクマネジメント、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 看護学科：公衆衛生学 全学：大学道場 miniゼミA				

担当科目コマ数	10.9
本年度の課題	
・授業内容の充実 ・研究時間の確保	
本年度の目標	
・メリハリをつけた分かりやすい授業を心がける。 ・研究を発展させる。	
主な活動内容	
1）教育活動 ・これまで同様、教科書だけに頼らない授業を心がけた。公衆衛生学、医動物学の講義では最新の事例も紹介し、授業に興味を持ってもらえるように努めた。医動物学実習では従来の口頭試問からマナバを使った小テストに切り替えた結果、口頭試問のための長い待ち時間がなくなり、効率よく実習を行うことができた。 ・高校ガイダンス（三田学園） 2）研究活動 研究テーマ： 脱アセチル化酵素阻害薬を用いた潜伏感染ネコ免疫不全ウイルス(FIV)の活性化 研究の現状： FIVを用い、試験管内でのエイズ発症モデルの確立を目的として脱アセチル化酵素阻害薬ロミデプシンによるFIV産生誘導の至適条件について検討した。今後は他の薬剤とのカクテル効果についても比較検討したい。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 ・サルビア講座（於：長田区役所　ペットブームに潜む危険～動物由来感染症から身を守る～） ・京都文化医療専門学校 非常勤講師	
今後の課題	
・苦手科目に対する学習意欲を喚起する方策の検討 ・研究の発展	

教員名	松元 英理子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会（副委員長）、 ときわ教育推進機構、FAST等企画運営ユニット				
クラス担任	M3　Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎生物、臨床検査入門、生命科学、遺伝子・染色体検査学、遺伝子・染色体検査学実習、臨床検査学発展演習、医療英語、卒業研究、総合医				

	学検査学特論、総合医学検査学演習、大学道場miniゼミB、現代社会と生命科学
担当科目コマ数	9.67

本年度の課題

①本年度、新カリで新たに開講する科目について、学生の興味を喚起し、学修を促進するような方法を検討する必要がある。②生命科学分野の研究を、次のステップに進める。

本年度の目標

①本年度開講の「臨床検査学発展演習」で、学生の興味を喚起し学修を促進する方法を構築する。
②白血病細胞の分化誘導時の cyclin D1 の細胞内局在変化について研究を進める。

主な活動内容

1）教育活動

「臨床検査学発展演習」は3つの専門分野に関するテーマについて、学生の授業時間外の予備学修と時間内のグループワークを組み合わせた科目である。このうち遺伝子・染色体検査を担当し「新型出生前診断を今後どのようにしていくべきか」というテーマでジグソー法によるグループワークを行った。授業評価の結果は「総合評価」4.5、「自分で調べ考える姿勢が身についた」4.4など高い評価を得た。

2）研究活動

研究テーマ：①細胞周期関連因子cyclin D1の機能と細胞内局在に関する研究　②「臨床検査学発展演習」を通した学生のときわコンピテンシー獲得に関する研究
研究の現状：①卒業研究のゼミ生と共にcyclin D1の細胞内局在の解析を行い、白血病細胞の分化とcyclin D1の細胞内局在との関係を明らかにした。②「臨床検査学発展演習」履修者の同意を得、ときわコンピテンシー獲得に関するアンケート調査を実施した。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

民間救急講習団体(FAST)神戸常盤大学の救急ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰとしての活動を行った。

今後の課題

①新カリ科目が全て開講されたので、今後は学生の興味を一層高めるように各々の授業内容を改善していく。②生命科学分野の研究を次のステップに進める。③「臨床検査発展演習」で得たデータを解析し研究成果としてまとめる。

教員名	新谷 路子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会委員、SD委員会委員、ときわ教育推進機構委員				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	大学道場 miniゼミ、基礎検査学、基礎検査学実習、解剖組織学、				

	病理学、人体のふしぎ、チーム医療論、検査リスクマネジメント論、 医療コミュニケーション演習、文献講読、総合医学検査特論、 卒業研究
担当科目コマ数	10.97

本年度の課題

・学生の授業時間外の学修量を増加させる。
・国家試験対策を強化する。
・研究成果を学術雑誌に発表する。

本年度の目標

・配布プリントや manaba を活用し、学生が予習・復習をしやすい仕組みを整える。
・国家試験対策用暗記プリントの掲載内容・量を見直す。
・共同研究等を発展させ、論文投稿に力を入れる。

主な活動内容

1）教育活動
・講義（病理学・解剖組織学等）では、まとめプリントを配布し復習を促し、学生の理解の促進に努めた。チェックプリントにより、定期試験対策を早めに開始させた。
・実習（基礎検査学）では、レポートの重要項目に関して解説を行い、疑問点が残らないよう努めた。学生自作の尿検査パンフレットの発表会を行った。

2）研究活動
研究テーマ：閉経モデルマウスにおける細胞死誘導に関する免疫組織化学的検討
研究の現状：卵巣摘出マウス（低エストロゲン状態）の胃・腸管上皮細胞を対象に、種々の細胞死（アポトーシス、ネクロプトーシス、オートファジー細胞死）経路について免疫組織化学的に解析している。今後、さらに他の細胞死（パイロトーシス等）について関連蛋白の発現を調べ相互作用を解明して行く。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　　1　回）　論文（　　1　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
・神戸大学大学院保健学研究科客員教授
・兵庫県立相生高校および御影高校における臨床検査技師の仕事紹介

今後の課題

教育：学生参加型の授業スタイルを更に工夫する。より分かりやすい配布物を作製する。
　　国家試験対策において学生の理解度の底上げを行う。
研究：研究成果を学会発表および論文発表して行く。

教員名	澤田 浩秀	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員長、遺伝子組換え実験安全委員長、M科卒業研究・学研委				

	員長、M科細胞検査士養成課程委員		
クラス担任	医療検査学科４学年	クラブ顧問	なし
担当科目名	医療検査学科：生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理機能検査学ⅡＢ、環境生理学、労働衛生学Ⅰ、大学道場ミニゼミ、医療英語、文献購読、検体採取安全管理演習、臨床検査学演習、検査リスクマネジメント論、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 看護学科：看護解剖生理学Ⅰ、臨床検査総論、医療機器総論 口腔保健学科：臨床検査学		
担当科目コマ数	9.6		

本年度の課題

１．研究活動の充実化、２．外部研究資金の獲得

本年度の目標

１、研究課題である“腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究”および“ミクログリア活性化制御によるパーキンソン病治療法の開発”の研究について結果をまとめ論文作成を行う。
２、科学研究費など外部研究資金の獲得に向けて取り組む。

主な活動内容

1）教育活動
どの科目においても、図表の説明を中心に、特に視覚から理解できるような授業を行った。各科目とも、穴埋め箇所に重要な点を書き込んでいくプリントを配布し、これに沿って授業を行った。授業評価（授業の満足度）に関しては、生理学Ⅰが4.0、生理学Ⅱが3.9、生理機能検査学ⅡＢが3.7（オムニバス）、環境生理学が3.8、労働衛生学Ⅰが3.8(オムニバス、いずれも医療検査学科)であった。評価されなかった点として、授業の聞きやすさ、授業内容の知的関心・好奇心のなさであった。今後も、できるだけゆっくり話すこと、授業内容をわかりやすくまとめることに注意した授業を行うよう心がけたい。

2）研究活動
研究テーマ： ①腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究、②ミクログリア活性化制御によるパーキンソン病治療法の開発
研究の現状：
本年度の目標１．については、研究テーマ①の結果を、日本認知症予防学会で成果発表したが、研究テーマ②についてはまだ結果が得られていない。また、いずれも論文作成までは至っていない。
本年度の目標２．については、科学研究費など外部研究資金の獲得には至らなかった。本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照
　学会発表（　１　回）　論文（　２　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
日本臨床検査学教育協議会評議員、日本認知症予防学会評議員、国立長寿医療研究セン

ター客員研究員
今後の課題
１、研究活動の充実化：研究へ費やす時間をできるだけ確保し、研究テーマの内容を論文として発表できるようにすること。 ２、科学研究費など外部研究資金の獲得

教員名	布引　治	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター副センター長、研究倫理委員会副委員長、広報委員会委員、細胞検査士委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	臨床検査入門、ミニゼミ、臨床病理検査学実習Ⅰ、組織学・同実習、細胞検査学、細胞検査学演習、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、医学検査特論、卒業研究、総合医学検査特論、細胞検査士養成課程				
担当科目コマ数	11.43				
本年度の課題					
細胞検査士養成教育の充実					
本年度の目標					
細胞検査士試験合格率の維持、合格者数の維持					
主な活動内容					
1)教育活動 細胞診教育成果向上を目的に、模擬試験結果を解析しやすいコンピュータプログラムを独自に開発した。目標とする学修成果を見極めることができた。 2)研究活動 研究テーマ：遺伝子多型 Genetic polymorphismの解析 研究の現状：腫瘍病変における遺伝子変化について検討。細胞診材料の HPV-DNA と遺伝子多型の関連性を研究した。 学会発表（　　2回）　論文（　　編）　著書（　　1冊） 3)社会的活動等 日本臨床細胞学会評議員、同学会細胞検査士委員会委員、同学会施設認定制度委員会幹事、日本臨床細胞学会近畿連合会理事、　兵庫県臨床細胞学会理事 日本デジタルパソロジー研究会幹事、兵庫県細胞検査士会理事 医療関連サービスマーク制度調査指導員（（財）医療関連サービス振興会）					

今後の課題
細胞検査士試験対策としての機材と教材の充実。細胞検査士試験高い合格率の維持。

教員名	鈴木 高史	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構・副機構長、国際交流センター・センター長				
クラス担任	3年生（全体・Aクラス）	クラブ顧問			
担当科目名	免疫学、免疫検査学Ⅰ、免疫検査学II、免疫検査学実習、国際保健活動I、国際保健活動II、分子感染制御学演習、総合医学検査特論、総合医学検査演習、労働衛生学、卒業研究				
担当科目コマ数	8.23				

本年度の課題
各種状況を見極めながら適切にエフォートを振り分けて、教育・研究・社会貢献活動の推進を目指す。
本年度の目標
論文発表 国家試験対策問題の研究
主な活動内容
1）教育活動 免疫(検査)学関連講義の新たな組み立てを行い、免疫検査学の国家試験対策用の資料作成を行った。分子感染制御学演習を担当教員とディスカッションを行いながら、新たに開講した。 2）研究活動 研究テーマ：熱帯疾患の新規コントロールツールの開発 研究の現状：長崎大学とShi-Gan International Collegeとの殺虫剤耐性蚊のネパールでの調査結果は論文にまとめ、publishした。ナトリウムチャネル導入細胞の構築は難航しているが、新たな発現システムの構築を終えたので、今後活性測定を行う段階に進む段階である。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　1　回）　論文（　3　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等
今後の課題
研究の推進と論文発表 学習進度が異なる学生への効果的な教育方法の探索

教員名	大澤 佳代	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	微生物学，病原微生物検査学I，病原微生物検査学II，感染制御学，　検査リスクマネジメント論，病原微生物検査学実習I，病原微生物検査学実習II，総合医学検査特論，卒業研究				
担当科目コマ数	14.73				

本年度の課題

就任１年目であり、担当科目の講義・実習内容を各学年の進度に合わせて構築する。

本年度の目標

各科目における微生物学に対する興味を導くとともに、国家試験対策へつながるように意識した内容とする。

主な活動内容

1）教育活動

・各担当講義科目は各学年の進度に合わせて講義内容を構築した。

・各担当実習科目は三浦先生とともに内容を吟味し、各学生が実習結果について十分考察できるよう意識して行った。

2）研究活動

研究テーマ：　薬剤耐性細菌における耐性機構の解析

研究の現状：日本における薬剤耐性細菌の病原性や薬剤耐性機構の解析、食肉中の薬剤耐性菌の状況を確認した。卒研学生による学会発表を行った。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　４回）　論文（　　７編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

・神戸大学大学院保健学研究科教授（兼担）

・兵庫県立小野高校における模擬講義及び臨床検査技師の仕事紹介

今後の課題

今年度はAMED課題が３課題あり、研究の推進と論文発表を行うとともに、微生物検査学に対する学生の学習進度の差を解消すべく講義・実習を検討していく。

教員名	坊垣 美也子	所属学科等	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員　学科国家試験対策委員　学科カリキュラム委員会				
クラス担任	医療検査学科4年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	検査入門実習　生体物質の化学　生化学Ⅰ　生化学Ⅱ　生化学実習 臨床化学検査学実習　臨床検査学発展演習　サプリメント演習Ⅰ				

	卒業研究　総合医学検査特論　生化学（看護通信制課程）
担当科目コマ数	11.57

本年度の課題

新カリキュラム学生､特に新カリキュラム1年目のM3生に対する国試に向けた学修支援。
旧カリキュラム学生の単位修得支援。

本年度の目標

M3科目である臨床化学検査学実習および臨床検査発展演習を通じて国試科目である臨床化学検査に関する知識の定着と学習意欲を高める。
旧カリキュラム学生の出席状況を把握し、適切な指導を行い単位の修得を進める。

主な活動内容

1）教育活動

①新たな科目である臨床検査発展演習を他の科目担当者と共に立ち上げた。内容、授業方法共に工夫を凝らした結果、学生の満足度の高い授業となった。

②M4 Bクラス担任として旧カリキュラムで複数年度にわたって学修･卒業が遅れている学生に対して、情報収集・連絡等の指導を行った。

2）研究活動

研究テーマ：血管内皮細胞と末梢血単球の相互作用に関する研究

研究の現状：前年度に引き続き血管内皮細胞の共培養によるTHP-1由来マクロファージの血管内皮細胞への分化の定量化を試み､血管内皮細胞の個体差によるマクロファージの分化に対する影響を比較検討した。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　1　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

今後の課題

新設の診療放射線学科において担当する 1 年後期に配当された「生化学」の授業準備を進める。
M4生の国家試験に向けた担当科目の底上げを図る。

教員名	関 雅幸	所属学科等	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会委員、医療検査学科臨地実習委員会委員、IR推進プロジェクト委員、情報インフラ整備ユニット委員、子育て総合支援施設KITテクニカルアドバイザー				
クラス担任	4年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	［医療検査学科］医療数理科学、情報科学概論、医療工学、医療工学実習、ロボティクス演習、卒業研究、総合医学検査演習、総合医学検査特				

	論　［基盤教育分野］暮らしの中の物理学、情報基礎、プログラミング入門
担当科目コマ数	10.97
本年度の課題	
半年または１年毎等の作業の効率化を考える。	
本年度の目標	
委員会活動での半年または１年毎等の作業のマニュアルを作成する。	
主な活動内容	
1）教育活動 教務委員会関連において、成績順位表の作成、manabaのコース申請について、その他でメーリングリストの申請についてのマニュアルを作成した。 2）研究活動 研究テーマ：（1)ロボット作成を用いた情報処理教育 (2)教育活動支援システムの作成 (3）LaTeXを用いた国家試験模擬試験の作成 研究の現状：(1）基礎知識を収集中。(2）4月の大学道場miniゼミの学生振り分けにて作成したExcelマクロを利用した。2020年度に向けて、学生が入力した学籍番号と氏名が、データベースと一致するか調べるExcelマクロを作成した。 (3）診療放射線技師の国家試験問題を用いてマクロを作成し､入力作業の簡略化を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　0回）　論文（　　0編）　著書（　　0冊） 3）社会的活動等 神戸常盤大学附属ときわ幼稚園の子育てセミナーで「プログラミングについて知ろう」のタイトルで講演を行った。神戸常盤大学地域交流セミナーの公開講座「ロボットプログラミングをやってみよう！」を行った。	
今後の課題	
新学科での担当委員会でベースとなる仕組みなどを作る必要がある。	

教員名	田村 周二	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	M科臨地実習委員、M科就職委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	生理機能検査学ＩＡ、生理機能検査学ＩＢ、人体の不思議（Ｅ科）、生理機能検査学実習Ⅱ、総合医学検査演習、生理機能検査学演習、				

	生理機能学実習Ⅰ、対人援助技術演習、まなぶるⅡ、ＢＬＳキャリアパス、総合医学検査特論、卒業研究、臨床検査入門
担当科目コマ数	11.77

本年度の課題

リカレントオープンカンファレンスについて論文化
緑葉フォーラムテーマ別発表
臨床検査技師養成大学校二年目に入り授業や教育活動における学生との信頼関係の構築

本年度の目標

毎月のリカレントオープンカンファレンスの実施
ＢＬＳキャリアパスとの連携を図り、就職活動の成果を高める。

主な活動内容

1） 教育活動
学生へ分かり易く理解しやすい内容の授業を実施するため、また国家試験に繋がる内容にするために講義も実習も、かみ砕いた内容にしたいと考え、授業スライドを一から検討し直すことを目標とした。
2） 現役学生はもちろんのこと、社会人となった卒業生の皆様にも月に一度、講義することを続けており、生理検査に強い大学を目指す。

研究活動
研究テーマ：各種超音波検査における日本語版・英語版・中国語版の配信用動画マニュアルの作成
研究の現状：
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 2 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）

3）社会的活動等
臨床検査技師を対象とした、生理検査オープンカンファレンスの月に一度の講義

今後の課題

・国試および就職に向けた学生への支援をさらに充実させること
・研究成果を第2報として論文（リカレントオープンカンファレンス）報告すること

教員名	杉山 育代	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員･職務	入試委員・臨地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	M科：生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ、画像検査学、生理機能検査学演習、生理機能検査学ⅡB、生理学と日常生活 、総合医学検査特論、総合医学検査学演習、卒業研究、検査リスクマネジメント論、臨床検査学演習、臨床検査学発展演習、検体採取安全管理学演				

	習、臨床検査入門、 基盤教育：人体のふしぎ
担当科目コマ数	11.37

本年度の課題

・授業回数が少なくなった新カリキュラムで学生の理解度をアップさせること
・研究時間の確保

本年度の目標

・新授業を含めて学生の思考力を発展させる授業展開に努力する。・
・入試委員と臨地実習委員副委員長としての役割を遂行する。
・研究時間の確保を考える

主な活動内容

1）教育活動

・カリキュラム改正による生理系授業の大幅な減少の結果、2018年度授業の理解が出来ないことが2019年度前期に学生からの声からも分かった。そこで、実習内容で生理機能検査学実習Ⅱ内容の一部を生理機能検査学実習Ⅰに移動させる等の変更を行い、理解度アップに繋げた。

・新授業「臨床検査学発展演習」で授業回数の減少した学生の理解度アップにつながる授業開発を行い実施した。学生が苦手とする肺機能検査について、検査手技という方向から、その手技をなぜ行うか・機器の操作手順等を、授業開始時に配布した大量の資料を基に2～3人のグループで考え発表する授業とした。その結果学生からは、「今までに受けた授業とは違い、手技という方向から自ら考えるため、その検査原理、臨床的意義など非常に理解できて、面白い授業であった。また小グループであるから話し合いもし易くて良かった」との声が上がっている。

・入試委員と臨地実習委員としての数多くの役割を遂行できた。

2）研究活動

研究テーマ：スマートフォンが及ぼす身体への影響-血管内皮機能を中心に
研究の現状：2019年度テーマ別研究費を取得し、データ取得を行っている。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

・兵庫県臨床検査技師会主催　「腹部・心臓超音波検査ハンズオン」～基本断面の描出と基礎計測を身につける～ についての講師として臨床検査技師の育成に貢献できた。
・兵庫県が主催し兵庫県臨床検査技師会が参加する「頸動脈エコー検査」に参加し、県民の健康に貢献した。
・TOKIWA 健康フェア「血管年齢検査」に参加し、学生指導と地域の皆様に貢献できた。

今後の課題

教育：学生が自ら勉強し、理解できることが面白いと感じる授業開発を行う 研究：データ解析を行い、発表を行う

教員名	澁谷 雪子	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員（副委員長）、国試対策委員、地域交流センター委員、 カリキュラム委員会				
クラス担任		クラブ顧問	バドミントン部（顧問） フットサル部（副顧問）		
担当科目名	生化学実習、臨床化学検査学実習、薬理と検査、臨床検査学演習、臨床検査発展演習、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究、BLSキャリアパスⅠ、BLSキャリアパスⅡ、地域との協働B				
担当科目コマ数	14.4				

本年度の課題

自身が関わる正課（実習、講義）、地域交流、就職支援で、一貫した学生指導（自主性を養う、学生の表現力）を心掛ける。
研究活動において、研究中のテーマを進め、まとめを行う。

本年度の目標

教育活動：学生実習、国試対策と連携した就職支援、地域交流に力を注ぐ。
研究活動：研究中のテーマを継続する。

主な活動内容

1）教育活動

「BLSキャリアパスⅠ」、「BLSキャリアパスⅡ」、「地域との協働B」において、学生自身が考える機会、環境を作る努力をした。学生の自主性を養うために、「学生自身が行動する ⇒ 学生自身、学生どうしで評価する ⇒ 教員が手助けをする」ことに重点をおき、取り組んだ。

就職支援においては、BLSキャリアパスから就職支援（就職委員会）への繋ぎを考え、途切れのない支援を心掛けた。また、国試対策と連携し、就職支援に携わった。

地域交流においては、いたやどクリニック協働企画、小豆島合宿に携わった。

2）研究活動

研究テーマ：　唾液の臨床検査について
研究の現状：　唾液中sIgA濃度と免疫能、栄養状態について研究を行った。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　0　回）　論文（　2　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

兵庫県臨床検査技師会　理事

今後の課題

自身が関わる正課（実習、講義）、地域交流、国試対策・就職支援で、一貫した学生指導（自主性を養う、学生の表現力）を心掛ける。 研究活動において、研究中のテーマを進め、まとめを行う。

教員名	澤村　暢	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国試対策委員、図書紀要委員、自己点検評価委員、OSCEワーキンググループ				
クラス担任		クラブ顧問	イムノヘマトロジー部副顧問		
担当科目名	血液検査学実習Ⅰ、血液検査学実習Ⅱ、医動物学・同実習、臨床検査学演習、まなぶる▸ときわびとⅠ、検体採取安全管理演習、細胞培養演習、医学検査サプリメント、I卒業研究、O科臨床検査学				
担当科目コマ数	13.07				

本年度の課題
OSCE が授業として始まるため、準備を整えスムーズに行えるようにする。 研究データのまとめ、新たな研究テーマの模索
本年度の目標
OSCE の評価方法の考案
主な活動内容
1)教育活動 今年度から授業の一環となったOSCEの運営、評価を行った。 口頭試問に代わり、manabaを利用した小テストを実施し学習効果の確認の効率化を図った。 2)研究活動 研究テーマ：Fibrinogenノックアウト細胞を用いたフィブリノゲン合成・分泌に関する研究 研究の現状：fibrinogenノックアウト細胞を使いIL-6の転写量解析を計画準備中。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　3　回）　論文（　2　編）　著書（　　冊） 3)社会的活動等 令和元年度兵庫県精度管理専門委員会委員 10/13　KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ 2019 にて健康チェックを行った。 11/16　兵庫県臨床検査技師会のイベントにスタッフとして参加。 3/6　芦屋高校での模擬授業
今後の課題
国家試験対策の見直し 学生の時間外学習時間を増やすための方法を考える

教員名	北野 悦子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員　ハラスメント防止対策委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	茶道部		
担当科目名	免疫検査学実習、公衆衛生学実習、輸血・移植検査学実習、 BLSキャリアパスⅠ				
担当科目コマ数	7.47				

本年度の課題

社会人になる基本的なことを身につけこと。
実習をとおして、検体の結果を出し、そこから病気などを考えて人に説明する能力を身につけ、将来のチーム医療などに対応できるようにすること。
普段の勉強や実習を国家試験に結び付け、考えられるようにすること。

本年度の目標

社会人になるためには何が必要か自分たちで話し合い、方法を見つけていく。
実習に対して受け身ではなく、学生が自ら準備し、結果をだし、結果をプレゼンテーションにより、人に説明する能力を身に着ける。
実習内容が国家試験対策へつながることへ学生の認識を高める。

主な活動内容

1）教育活動：
自己分析をし、目指す社会人像を考えさせた。
実習では、予習用のプリントや実習内容に沿った国家試験問題の配布で学生の意識を高めた。レポート添削も力をいれ、プレゼンテーションの場をつくり発表させた。

2）研究活動
研究テーマ：①「異常補体を示す症例の解析」
②「唾液中の補体成分存在について-唾液中の補体成分測定の試み-」
研究の現状：①は、終了。
②は、澁谷先生との共同研究で、継続中。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
特になし

今後の課題

実習をとおして、自ら問題を見つけ、論理的に解決していくための基礎知識の十分な習得と活用、特に文章表現力を身につける。

教員名	今西 麻樹子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員、SD委員、M科卒業研究委員				

クラス担任		クラブ顧問	バトミントン部（副顧問） 弓道同好会（副顧問）
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学ⅡB、基礎検査学実習、 生理機能検査学実習Ⅱ、臨床検査学演習、検体採取安全管理演習、 医療コミュニケーション演習、まなぶる▸ときわびとⅡ		
担当科目コマ数	11.6		

本年度の課題

教育：実習および授業内容の充実
研究：研究活動の充実

本年度の目標

教育：学生の理解が深まるように講義・実習内容のブラッシュアップを行う。
研究：データ解析中の研究を論文化する。

主な活動内容

1)教育活動
M４科目『医療コミュニケーション演習』の講義部分も担当することとなったため、前任者の講義スライドを修正・追加した。また、manabaを活用してのアンケート結果を授業内容とリンクさせて講義を進めるなどの工夫を行った。

2)研究活動
研究テーマ：①膠原病除外のための抗DFS70抗体の同定方法の研究
研究の現状：①抗DFS70抗体に関連する論文を投稿中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 0 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊）

3)社会的活動等
社団法人兵庫県臨床検査技師会　学術部管理運営研究班班員
KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ
「ふれあいフェスティバル in 北播磨」健康福祉まつり実務委員

今後の課題

教育：実習および授業内容の充実
研究：研究活動の充実

教員名	三浦 真希子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員、卒業研究委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	病原微生物検査学実習Ⅰ・Ⅱ、まなぶる▸ときわびとⅠ、 検体採取安全管理演習				

担当科目コマ数	11.67
本年度の課題	
・　学生が能動的に学びやすい実習環境を工夫する ・　研究の遂行（学会発表）	
本年度の目標	
・　学会発表を行う ・　実習準備室の環境整備	
主な活動内容	
1）教育活動 ・　学生が能動的に動きやすい物理的環境を整えるため、実習室の環境整備を行った ・　実習の最後に、グループ単位で考察及び発表を行う形式を取り入れ、学生が能動的に学ぶことができるよう工夫した ・ 2）研究活動 研究テーマ：　保育施設におけるオムツ処理規定モデルの構築 研究の現状：科研費の助成を受け、調査実施、解析中である 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　1　回）　論文（　　1 編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 ・　TOKIWA 健康ふれあいフェスタで体組成測定を行った	
今後の課題	
・　引き続き学生が能動的に学びやすい実習環境を工夫する ・　研究成果を論文として発表する	

教員名	溝越 祐志	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試委員、学生委員、カリキュラム委員				
クラス担任	なし	クラス担任	なし		
担当科目名	検査入門実習、公衆衛生学実習、遺伝子・染色体検査学実習、免疫検査学実習、まなぶる▸ときわびとⅠ、まなぶる▸ときわびとⅡ、文献購読、分子感染制御学演習、遺伝子工学演習、臨床検査学演習				
担当科目コマ数	10.3				
本年度の課題					
・今まで出た研究結果をまとめ、論文または学会発表する。 ・学生自身が考え、考えを表現する授業体系を考える。 ・成績が低迷している学生へのサポートを強め、対話を強めることで低迷の原因解明と改善を試みる。					
本年度の目標					

・研究成果を発表する。
・学生が表現する機会のある授業体系を模索する。
・卒研ゼミ生、チューター学生の成績動向を把握し、早期フォローを行う。

主な活動内容

1）教育活動
・実習において学生自身で実習結果・考察をパワーポイントにまとめ、他の学生に説明する機会を設け、学生の表現力を向上させるように努めた。
・担当卒研生、チューター学生の成績や状況把握に努めた。チューター学生に関しては、面談の機会等も設けたが、一部フォローが足りない学生がいた。卒研生の成績の把握・フォローはできていた。

2）研究活動
研究テーマ：① 新規遺伝子導入細胞セレクションシステムの開発
② 敗血症マーカープレセプシンの産生機序に関する検討
研究の現状：① 研究成果を論文にまとめ、発表した。② 継続中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　　１回）　論文（　　３編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
日本臨床検査同学院が実施している二級臨床検査士資格認定試験（臨床化学分野）の試験監督を務め、現場の臨床検査技師の育成活動に努めた。

今後の課題

・学生の学力の 3 要素を継続して成長させる授業を展開する。
・チューター学生で成績が芳しくないものへのフォローを強化する。

教員名	佐野 太亮	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国試対策委員、地域交流センター、LS細胞病理研究ユニット、学内実習安全委員、細胞検査士養成課程委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	病理部（顧問）		
担当科目名	組織学・同実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、臨床基礎検査学実習、臨床検査入門実習、まなぶ▸ときわびとⅠ、まなぶ▸ときわびとⅡ				
担当科目コマ数	13.27				

本年度の課題

今年度の研究をさらに進めて行きたい。
引き続き、国試対策、細胞検査士養成課程の試験対策をより充実させたい。また、学修面だけではなく、ボランティア活動についても学生が取り組みやすいように努めたい。

本年度の目標

1.　　養成課程のオリジナルテキストの改訂 2.　　模擬試験結果を反映した個別問題集の作成
主な活動内容
1）教育活動 病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、組織学実習の準備、レポート、スッケッチの指導に加え、新たにまなぶる▸ときわびとⅠ、まなぶる▸ときわびとⅡの授業を担当した。 2）研究活動 研究テーマ：① File makerを用いた学習システムの構築 　　② 家族性多発性GISTモデルマウスからの初代培養系の樹立 研究の現状：継続中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　2　回）　論文（　　1編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 　子宮の日ボランティア活動、健康フェスタ、兵庫県健康福祉まつり
今後の課題
1．研究活動時間の確保。 2．国試対策、細胞検査士養成課程の１次、２次試験対策をより充実させる。

２．保健科学部　看護学科　個人年間活動報告書

教員名	鎌田 美智子	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	副学長兼保健科学部学部長、学園一体化推進協議会委員、自己点検評価委員会委員長、運営委員会委員、入試合否判定部会委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	看護学概論、基本看護技術Ⅳ（看護過程）、看護教育論、看護学研究課題別総合実習				
担当科目コマ数	5.30				

本年度の課題

副学長・学部長の立場から、教学運営を把握しつつ、個人の研究活動の比重を高める。

本年度の目標

１．保健科学部の教員の交流を高め、教育研究活動への認識を深め、かつ学部合同授業等の質を高め、学部運営の効果をあげる。

２．個人の教育・研究活動の充実をはかる。

主な活動内容

１）教育活動

授業実践においては、特に「看護学概論」、「看護教育論」における歴史的側面の内容を強化し、看護学の現状を大きな視野（過去←現在→未来）で捉られる様、展開した。学生による評価では、従来同様「難しいけれど心に響く授業」「看護学や看護実践が何を成すべきかがわかり興味関心が高くなった」等の反応が見みられ、欠席もほとんど見られていない。“看護への興味・関心・探究を導く”**の**ねらいはほぼ達成。

学部運営活動については、一昨年に開始した「学部学科長会議2回／年」を継続。さらに3月には、Ｒ科学科長予定者を交えた会議を開き、カリキュラム運営や学生指導等の状況を把握し、課題を確認した。次年度当初に、3学科教員合同の顔合わせの会議を開催する予定。

２）研究活動

研究テーマ：看護診断、教育及び看護実践における評価等

研究の現状：「地域拠点において当学科が提供するall の健康支援に向けた実践モデルの検討」他。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（２）回　　論文（１）編

３）社会活動

日本私立看護系大学協会活動、県下看護系大学協会、看護協会「まちの保健室」等

次年度の課題

＊教育・研究、管理運営のバランスを考慮し、個人研究（これまでのテーマ蓄積の分析を整理し、公表の機会を高める。＊臨床（臨地実習施設）との連携研究を高める。

教員名	長尾 厚子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	運営委員・通信教育委員・看護学科長・通信教育委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	（通学）いのちと共生・看護対象論Ⅰ・看護活動基礎実習・生活健康論実習・基礎看護学実習(看護過程)・課題別総合実習・看護研究演習 （通信）看護対人関係論・看護と研究				
担当科目コマ数	7.73				

本年度の課題

１．担当授業科目の授業内容の精選・授業方法の工夫をはかる。
２．研究活動の継続

本年度の目標

１．「看護対象論Ⅰ」の授業内容の精選・授業方法の工夫を図る。
２．基盤教育分野科目「いのちと共生」のときわコンピテンシーの到達度を確認する。
３．研究の研究活動を継続する。

主な活動内容

1）教育活動

①「看護対象論Ⅰ」については授業方法として、主体的な学習ができるための工夫として、前半に課題を与え自分で調べてレポートし、その結果をグループで共有し全体で発表する方法を実施している。課題に対しての個人の取り組みは良好であるが、グループワークは参加度に差が見られ難しい。次年度はグループワークの時間を短縮し、授業内容に「触れることの意味」などを取り入れるなど授業内容・方法の工夫を次年度の課題としたい。また、地域ボランティアの方の協力を得て、全員が「模擬患者」との対応場面の体験学習を実施している。学生からの評価は高く、ほぼ全員が「大変良かった」と答えている。臨場感があり、早期の学習として効果的であり、成果はおおむね達成できた。次年度も地域公開講座での「SP講座」を活用して継続を図っていくことが課題である。

②基盤教育分野での３年目の「いのちと共生」は、受講者数はM科20名、N科６１名E科７６名、計157名であった。授業評価コメントからは「毎回異なる内容が面白い」「様々な観点から考えられた」「分野は違うが将来役に立つ内容だった」など肯定的な意見があったが、「人数が多すぎ集中に欠ける」などの意見もあった。7名の教員のオムニバスでの授業展開であるが評価方法を「毎回の授業内容から得られた知識や、さらに調べた内容」をもとに関心のあるテーマを選んでレポートしその内容を評価した。関心のあるテーマにはばらつきがあった。ときわコンピテンシーの到達度はレポートの内容からおおむね評価でき、総合評価では秀26％、優51％、良23％となっている。

2）研究活動

研究テーマ：①対人援助に関する研究　②看護学教育評価に関する研究　③2年課程（通信制）の教育に関する研究

研究の現状：

昨年度の学科で取り組んだテーマ別研究「地域拠点において看護学科が提供するall　gen

erationの健康支援に向けた実践モデルの検討」の研究成果から、次年度は教育活動に生かす方向性の模索を始めている。また、「学生が看護学実習において学習意欲が向上したと感じた教員の間主観的な関わり一学生の視点から一」についての研究成果を日本看護研究学会での発表予定である。 　さらに、「看護師2年課程（通信制）入学要件短縮（10年から7年）に伴う技術教育の在り方の検討」についての研究成果を今年度の看護学教育学会で発表した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照。 　学会発表（　　１回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 　公開講座講師「ＳＰ養成講座」看護協会主催「臨床指導者講習会」講師
今後の課題
１．担当授業科目の授業内容の精選・授業方法の工夫の成果から課題を見出す。 ２．研究活動の継続をはかる。

教員名	岩越 美恵	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教職支援センター委員、看護学科養護教諭課程委員長、ストレスチェック実施者				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	健康科学総論（N・O）、症候論Ⅰ、養護概説、障害児保育、養護実習Ⅰ・Ⅱ、事前及び事後の指導、教職実践演習、人体のふしぎ、Miniゼミ B、看護学研究、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学演習Ⅰ・Ⅱ、健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ				
担当科目コマ数	8.07				

本年度の課題
1）長田区内の障害児者関連施設との交流の中で、様々な障がいのある方々・子ども達・その家族の課題を絞り、その課題解決のための新たな研究や地域貢献活動を具体的に計画（一部実行）する。 2）前年度の研究の継続
本年度の目標
1）上記１）について課題を絞り、課題解決に向けた地域貢献活動を計画する。 2）対象者の集積目標値 10 名
主な活動内容
1）教育活動 ・前年度に引き続き、学生の障害児者に対する意識と行動を変化させることを狙い、「障害児保育」の授業では当事者やその支援者をゲストスピーカーとして授業に招き、「miniゼミB」ではB型障害者就労継続事業所に学生と共に出向き、障がいのある人たちと交流を持たせた。 ・卒業研究では、重症心身障害児の訪問看護に関するテーマで2名の学生を指導した。

2）研究活動
研究テーマ：
(1) 発達障害児のポジティブな自己受容をめざした診療の実践
研究の現状：
(1)取り組んだ症例の蓄積（告知済30名・告知前準備中約32名）
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）
3）社会的活動等
・西宮市社会福祉協議会「青葉園」の運営委員、NPO 法人青葉福祉会の評議員として定例役員会に出席
・三木市教育センターにおける教育相談＋三木市健康増進課発達相談（全 12 回/年）
・NPO法人みどり兵庫（法人成年後見制度）の評議員として総会、理事会に出席
・長田区内の障害児者関連施設との交流（くららベーカリー、NPO 法人ウィズアス、）
・重度心身障害児専門の訪問看護ステーション（伊丹市：しぇあーど）での学生の研究でお世話になり、そちらの依頼で重症心身障害児の兄弟達の支援イベントに本学のＥ科・Ｎ科の学生を派遣した。
・「学生と障害のある人たちと共にインクルーシブな地域コミュニティー創り」モデル事業計画を長田区ＮＰＯ法人ウイズアスと共に立案した。

今後の課題

・長田区内の障害のある人たちの暮らしの課題解決のために今年度立案した大学と地域のＮＰＯ法人との協働事業計画の実施と研究
・これまでの継続研究の続行

教員名	畑 吉節未	所属学科	保健科学部 看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	SD委員長、看護学科教授会将来構想・カリキュラム検証委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	在宅看護学概論・在宅看護特性論・在宅援助論・チーム医療論・災害看護・看護研究演習・看護活動基礎実習・健康支援実習Ⅰ・課題別総合実習				
担当科目コマ数	17.53				

本年度の課題

在宅看護学・災害看護学・多職種連携をはじめ、自らが担当し研究を行っている分野に関して、さらなる研究の蓄積を図り、国内外に発信するとともに、教育内容に反映させる必要性がある。

本年度の目標・方針

1)研究成果を論文として外部により多く発信する。
2)研究を深め、その成果を教育に反映させる好循環を生み出し、学生に還元する。
3)3年目となるSD委員長としての役割を確実に遂行し、活発な委員会活動を展開できる。

4)大学内部・関連機関への研究支援を行う。
5)活動のエフォートは、教育40%・研究20%・管理運営20%・社会サービス20%

主な活動内容

a. 目標達成に向けた活動内容（目標ナンバーと対応）

1)5回の学会発表、5本の論文、著書1冊、8回の講演会で研究の成果を発信した。外部研究資金として継続中の科研費研究に取り組んだ。

2)「災害看護」「在宅看護」の授業や病院研修に、研究の成果を活用し研究と教育との循環を生み出すことができた。特に熊本地震の支援や在宅災害訓練の実際を講義に反映できた。

3)3年目のSD委員会委員長としての役割を計画的に遂行し、7回研修会を行った。また年次活動計画や評価および認証評価の資料づくり作成の役割を担った。関西FD連絡協議会の幹事校としての会議に参加し役割を果たした。外部からの研修情報をタイムリーに全学発信した。

4)精神看護学の教員との共同研究を大学紀に総説として発信するまでの指導を行った。外部的には、東京都訪問看護連絡協議会との研究の成果報告、熊本県訪問看護ステーション災害訓練指導、ときわ病院在宅支援課開設準備のコメンテーター、神鋼記念病院継続看護検討員会のスーパーバイザー、外部講演・関連学会のシンポジスト、全国レベルの講演会を合わせ8回と関連機関からの依頼に応えた。難病団体の災害への備えのガイドッブク作成の指導を担い、監修者として著書を発刊した。学科教授会においては将来構想・カリキュラム検証委員長として計画的に2つの委員会を進行した。

5)計画したエフォートにほぼ配分した活動を行えた。

b. 教員としての主な活動内容

・教育活動

[授業評価]単　独　科 目:在宅看護概論4.7　/ 災害看護4.8
オムニバス科目:在宅看護援助論3.6/ 在宅看護特性論4.2 / チーム医療論4.2

[健康支援実習Ｉ] 昨年開発した実習のルーブリック評価を実際の実習に活用した。

・研究活動

研究テーマ: 「災害看護教育プログラムの開発」「訪問看護ステーションの災害への備え」
「地域連携室の退院調整看護師が担った学生への学習支援」

研究テーマの現状:テーマごとに研究の全体像を描き、計画的に研究を遂行している。

専門領域:看護教育方法論の開発・評価、看護対人技能、災害看護、在宅看護、多職種連携

本年度の研究業績　詳細は「リサーチマップ」を参照

・学会発表(5回)　学術論文(5編)　著書(1冊)

社会的活動等

[講演・研修会講師・シンポジスト]

①災害の基礎知識と多職種連携による災害時の備え／大阪市保健所主催招致講演:「医療的ケアが必要なこどもの在宅療養支援 における災害時の備えと多職種連携.

②在宅の特性を踏まえ訪問看護ステーションの災害の備えをデザインする／笹川保健財団看護研修会in東京　在宅看護と災害.

③在宅支援に必要な訪問マナー/ときわ病院　在宅支援課主催.

④看護を語る意味:ナラティブ/川崎病院 看護部

⑤継続看護の概念と今後の展望/神鋼記念病院　継続看護検討委員会主催.

⑥災害時のおける看護師の役割/兵庫県社会福祉事業団 施設看護師専門研修会
⑦療養者・家族に寄り添う災害看護のデザイン/ 「日本財団在宅看護センター」企業家育成事業（笹川保健財団） 講師
⑧看護を語ることの意味 ーケアのタペストリーを織りなす看護者のまなざしー/兵庫県立リハビリテーション病院講演会
⑨療養者・家族に寄り添う災害への備えのデザイン /第24回日本在宅ケア学会シンポジスト
[学会活動]・日本看護学会 論文選考査読委員、優秀論文選考ワーキンググループ委員

［研究・活動支援］

【研究指導】

①在宅看護学領域教員への学会発表・論文作成指導
②精神看護学領域教員への学会発表・論文作成指導
③訪問看護事業団研究助成の共同研究（東京都訪問看護連絡協議会）の指導
④熊本市訪問看護連絡協議会の研究指導
⑤洛和会訪問看護ステーション13か所（滋賀県）の研究指導

【活動指導】

①熊本県訪問看護ステーションでの災害訓練の指導
②神鋼記念病院の継続看護検討委員会のスーパーバイザー
③平成31年4月開設したときわ病院在宅支援課の運営のスパーアドバイザー

次年度の課題

1)研究成果を論文として外部により多く発信する。
2)研究を深め、その成果を教育に反映させる好循環を生み出し、学生に還元する。
3)SD委員長として4年目の役割を確実に遂行する。
4)大学内部・関連機関への研究支援を行う。

教員名	柳本 有二	所属学科等	N科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会 副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	健スポⅠ,Ⅱ,Ⅲ. 学校保健.基礎ゼミ.医療と安全 看護研究				
担当科目コマ数	9.03				
本年度の課題					
授業における学生の自主的な活動の検討					
本年度の目標					
1.ストレス軽減に向けたマインドフルネスウォーキングの普及 2.介護予防プログラムの開発・研究 3.認知症研究					
主な活動内容					

1）教育活動

学習の連続性を導くため授業ノートを作成し，毎授業始めに前回の授業ノートから特筆事項を紹介した．また，グループを作り，討論をできるようにした．さらに，学校保健などでは，毎時，学校保健に関連する新聞等の記事を各担当グループ全員が読み込み各人の意見を聞くようにした．結果，捉え方の違いから比較することができた．

スポーツの歴史からニュースポーツのあり方を考え，ノーマライゼィション的な身体活動について検討した．

健スポでは，歩数計を活用しため，受講生が運動量を把握できた．そのことが，学生の学習を喚起したと思われた．

2）研究活動

研究テーマ：大学，行政および一般社団法人の連携で実施したウォーキングイベントについて　ーわがまち長田を歩こう会ー

研究の現状：自然環境下と騒音下において，マインドフルネスウォーキング時の脳波の相違について解析した．

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

・大学，行政および一般社団法人の連携で実施したウォーキングイベントについて　ーわがまち長田を歩こう会ー

・「歩」くとは，「止」まるのを「少」なくすること―障碍のある方も一緒にウォーキングをー 特別講演

・腸内環境の変化がパーキンソン病における神経変性に与える影響

学会発表（　3　回）　論文（　2　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

・堺市総合医療センター　看護フェア　講師　主催：堺市総合医療センター

他　講演 20 本

今後の課題

日本ウォーキング学会会長として，全国にウォーキングの健康づくりを普及していく．

教員名	庄司 靖枝	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会（入試副委員長）高大連携委員会、研究倫理委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論,看護対象論Ⅴ（小児）,小児援助論,母子支援実習Ⅰ 看護活動基礎実習,課題別総合実習,看護研究,大学道場miniゼミA				
担当科目コマ数	17.8				
本年度の課題					
本学附属幼稚園の協力を得て行った演習（対象論Ⅴ）の効果について分析と内容の精錬 卒業生参加の演習における臨床とのユニフィケーションを考えた研究の分析と実施					
本年度の目標					

（教育）学生の小児看護の実践力を養うための効果的な演習・講義の見直しと構築 （研究）「地域活動拠点において看護学科が提供する All Generation の健康支援に向けた実践モデルの検討」（テーマ別研究）と小児看護における効果的な演習の調査研究
主な活動内容
1）教育活動 ２年生の小児看護の実践力を養うための演習として，附属幼稚園の園児に協力を得て身体計測・バイタルサインズの測定を演習で実施しているが、昨年より事前の準備、演習中、事後の評価など学生主体で行うことができた。また３年生の卒業生参加の演習においても修正を加え実践を考慮した演習に進化してきた。 2）研究活動 研究テーマ： 1.「地域活動拠点において看護学科が提供するAll Generationの健康支援に向けた実践モデルの検討」（テーマ別研究） ２.「卒業生参加を取り入れた小児看護学演習の意義」をさらに演習に加わった卒業生から調査し、卒業生にも意義が見いだせていたのか調査する。 研究の現状：1は調査が済み調査結果を文章にまとめる最中。 2は調査が終了し、学会（小児看護学会第29回学術集会で発表 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　1回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 兵庫県看護協会「まちの保健室　子育て支援」（6/8、3/7 中止）ときわんモトロク・KIT における子育ての講演（4/18、7/16）,神戸大学周産期センター「かるがもの会（10/5） 日本小児看護学会第 30 回学術集会　企画委員（2019 年４月～2020 年９月）
今後の課題
1．小児看護領域における演習（附属幼稚園での演習、卒業生参加の演習）の精錬 2．「附属幼稚園での演習」の研究分析と「卒業生参加の演習」の論文作成 3．テーマ別研究の調査結果を分析し論文にまとめる

教員名	生島 祥江	所属学科等	保健科学部看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会委員長、個人情報保護委員、看護学科臨地実習委員会委員長、看護学科就職委員会委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、看護対象論Ⅱ、慢性病看護論、緩和ケア、リハビリテーション看護論、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、看護学研究				
担当科目コマ数	20.23				
本年度の課題					
・　授業では、学生全参加型討論による学びの共有を図る。 ・　臨地実習では、事前準備を整え、1 回性の場面で学生が実践できるように関わる。					

・　研究活動では、現在の研究成果をまとめ学会等に報告する。
本年度の目標
・　授業では、既存のツールを活用して、学生全体で討論し、学びが共有できるようにする。 ・　臨地実習では、事前学習を整え、学生が 1 回性の場面で実践できる。 ・　研究活動では、現在の研究成果をまとめる。
主な活動内容
1）教育活動 発表前にグループワークの資料をmanaba上にアップして、同じ課題に対する他グループの成果を可視化した。昨年度より学びを共有しようとする姿勢が伺えた。臨地実習指導では、事前に翌日に向けての学習内容を確認しながら進めていき、臨地実習指導者の協力もあり成長が見られた。 2）研究活動 研究テーマ：慢性病患者の看護過程においてDVD教材を用いた学習効果 研究の現状：データの分析、まとめ 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等
今後の課題
・　授業では、課題解決型学習を積極的に取り入れ、学修の到達目標の達成を図る。 ・　臨地実習では、学生が体験する機会を失うことなく学修の到達目標の達成を図る。 ・　研究活動では、共同研究のデータ収集・分析、成果をまとめる。

教員名	尾﨑 雅子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会（委員長）、ときわ教育推進機構				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、基礎看護学実習（看護過程）、看護活動基礎実習、生活健康論実習、課題別総合実習、看護学研究、大学道場miniゼミA、医療と文化（E科）				
担当科目コマ数	18.83				
本年度の課題					
・教育活動については前年度の継続として学修内容を学生と共有できるようにし、低学年から学修意欲を喚起させるような工夫をする。					

・技術教育における学生の変化について経年的に確認できるよう取り組んでいく。
本年度の目標
・前年度より継続している学生の主体的な学習に向けた工夫（学修目標や評価の視点の明確化、学修成果の意識化）の継続と評価を行う。 ・データ分析を終えている部分は論文に投稿する。分析中のものは公表の準備を進める。
主な活動内容
1）教育活動 　昨年度と同様な取り組みを継続した。１年「基本看護技術Ⅰ（共通・生活援助技術）」では学生の主体的な学習を支援するために、時間外に個別指導の時間を設け、技術修得へのプロセスをポートフォリオとした。最終回に学修成果を自己評価してもらったが、演習を通して学んだことを振り返り、今後の課題について意欲的な姿勢が見られた。「基本神尾技術Ⅳ（看護過程）」では授業評価全体4.5と高く（昨年度3.9）、評価の視点を明確にしたことや実習の前提科目であることの意識づけが効果的であったと評価する。低学年の学修意欲の喚起については今後も継続して進めていきたい。 2）研究活動 研究テーマ：技術教育における看護学生の情意領域の変化　他 研究の現状：学内演習レポートからの分析結果は報告論文を作成し、本学紀要に投稿した。臨地実習の体験のインタビュー結果は分析中で、次年度に発表予定。他に地域の子育て支援に関する研究（ブランディング事業）も紀要に採用された。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　1　回）　論文（　　2　編）　著書（　　1　冊） 3）社会的活動等 ・兵庫県看護協会「まちの保健室」（本学拠点）ボランティア ・高校生への授業（高大連携活動）
今後の課題
教育活動と研究活動のバランスをとるようにしたい。教育活動については今年度の取り組みを継続する。研究活動については分析を終えたものは速やかに公表できるようにし、学生の変化を経年的に捉えるために４年生を対象とした研究に取り組む。

教員名	中田　康夫	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構、教務委員会、情報インフラ整備ユニット、看護学科4年生国家試験対策講座、第13期長田区民まちづくり会議委員（にこやか部会副部会長）				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなぶる▸ときわびとⅠ、まなぶる▸ときわびとⅡ、超ときわびと、情報基礎、統計学、いのちと共生、コミュニティデザイン、保健統計学、医療統計学、対人援助技術演習、福祉社会の理解、プレゼンテーション技				

	法、歯科診療補助演習Ⅲ
担当科目コマ数	14.47

本年度の課題

- 基盤教育科目の意図する、「学ぶ悦び、知る愉しさ」を担当科目の中で具現化
- Social Engagement の質量ともの充実

本年度の目標

- 教育活動では、アクティブラーニングの推進
- 研究活動では、英文誌への投稿と国際学会での発表
- 社会的活動の可能な限りの推進

主な活動内容

1）教育活動

前年度の経験を踏まえ、「まなぶる▸ときわびとⅠ＆Ⅱ」における教授学習方法を他の科目にも援用し、前年度以上に学生の主体的・能動的な学修をサポートできるように工夫しつつ授業を展開した。具体的には、教授パラダイムから学修パラダイムへの転換の意識し、教員が「何を教えたか」ではなく、学生が「何を学んだか」に重点を置いた授業を展開することにより、学生が受け身的な学修から主体的な学修へとさらに深化していったと考える。

2）研究活動

研究テーマ：高等教育改革、高等教育質保証、介護予防、健康寿命の延伸

研究の現状：高等教育に関する研究は、学会発表・論文投稿とも予想以上に順調に推移しており、また学内共同研究の成果もいくつか出すことができた。特に本年度は IEEE/International Institute of Applied Informatics (IIAI) International Congress on Applied Information Technology (AIT 2019) において Best Paper Award を受賞することができた。一方、介護予防・健康寿命の延伸に関しては、実践には取り組んでいるものの、現時点では成果を出すまでには至っていない。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（ 16 回） 論文（ 13 編） 著書（ 冊）

本年度も昨年度同様、共同研究者とのコラボレーションが思った以上に推進でき、昨年以上のキャリアハイとなる業績を残すことができた。

3）社会的活動等

1. 第 12 期神戸市長田区民まちづくり会議の委員・同会議いきいき部会副部会長
2. 令和元年度長田区老人クラブ連合会主催の体力測定回の講師
3. 令和元年度きたすま在宅福祉センターすこやか友が丘の運営推進委員会の座長
4. 令和元年度長田区地域づくり活動助成公開企画提案回審査員
5. 令和元年度神戸市長田区社会福祉協議会福祉活動助成選考委員会　選考委員
6. 日本赤十字社和歌山医療センター看護部の指導者育成コース研修における人材育成

や指導に関心のある看護師を対象とした「リフレクションとは？　その目的と方法」をテーマとした研修会の講師（全４回）

7. 姫路赤十字病院看護部の教育プログラム「リフレクティブな後輩育成」をテーマとした研修会の講師（全３回）
8. 大谷町介護予防カフェ「ひだまりサロン」の講師（2 回／月）
9. 蓮池小学校ひとり暮らしふれあい給食会における「介護予防体操」（全２回）
10. 蓮池公会堂ふれあい給食会における「介護予防体操」（全１回）
11. 日本赤十字看護学会誌　選任査読委員
12. Associate Editor: International Journal of Institutional Research and Management (IJIRM)
13. Program Committee: International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI of 8th lnternational Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2019)

13以外の活動はすべて過年度からの継続的な活動であるが、上記すべての活動に対して次年度も引き続き支援を要請されていることから、一定の社会貢献ができていると考えている。

今後の課題

- 介護予防・健康寿命の延伸に関する研究成果の産出
- 高等教育の質保証と学修成果の可視化に関する研究の推進
- 看護基礎教育における数理・データサイエンス教育のありかたの検討と推進
- 社会的活動として、現在進行中の「介護予防カフェ」のより一層の推進と深化

教員名	鵜飼 知鶴	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員、就職委員、臨地実習委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	在宅看護特性論、在宅援助論、チーム医療論、健康支援実習Ⅰ、看護活動基礎実習、課題別総合実習、看護研究　ミニゼミA				
担当科目コマ数	16.67				

本年度の課題

教育活動：在宅援助論の授業の改善　チーム医療論の事例検討の工夫
研究活動：研究成果として論文による発信

本年度の目標

教育活動：プロジェクト学習を取り入れた在宅援助論の授業・演習を組み立てる。
医療検査学科と合同のグルーワーク方法の検討
研究活動：地域連携室実習での学びに関した研究の継続を実施し、学習支援の構造化を目指す。多職種への訪問看護マナーの強化に向けての調査研究

主な活動内容

1）教育活動
講義の事例展開では、ルーブリック評価表を活用し学生自ら自己評価し修正できるよう取り組んだ。実習では指導者にルーブリックの実習評価表を基に評価をして頂き意見を聞いた。活用することで、指導者の主観による評価が客観的になったが、評価に対する別の課題（教員の指導力の差）が明らかになった。
2）研究活動
研究テーマ：地域連携室実習における学習支援の構造化、病院に在籍する多職種のマナーへの認識に関する研究
研究の現状：データ分析、論文作成中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）
3）社会的活動等
兵庫県看護協会「まちの保健室」（本学拠点） TOKIWA健康ふれあいフェスタ
大学広報活動として看護学・神戸常盤大学の説明を業者説明会及び高校で実施した。

今後の課題

教育活動:在宅援助論に関する講義内容の精選とルーブリック評価表を学生が効果的に使用できるように活用方法を検討する。健康支援実習Ⅰでは、事前学習が十分に取れるように学生の空き時間の調整をする。教員の指導力による学生の学習に差がおきないよう実習指導案の検討をする。
研究活動：昨年度から継続している地域連携室実習に関する研究の学会及び論文発表等により研究成果を発信する。また、病院に在籍する多職種のマナー研修の効果をまとめ、明らかにし研究成果を発表する。

教員名	魚崎 須美	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	就職委員会・委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	大学道場miniゼミB、看護活動基礎実習、地域看護学概論）、健康相談の理論と方法、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護展開論Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅱ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護実習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、看護学研究				
担当科目コマ数	18.13				

本年度の課題

本学の理念に沿った保健師養成課程の運営を円滑に進め、専門職として社会に貢献できる保健師を輩出する。

本年度の目標

①保健師養成課程選択者が全員国家試験合格できる。
②保健師として就職を希望する学生が、希望するところへ就職できる。

主な活動内容

1）教育活動
目標①については、本課程履修希望者を定員の可能な限り受け入れ、国家試験受験資格取得に向けて必要な教育を行った。結果、本年度卒業者の保健師国家試験合格率は昨年度に続き100％を達成した。
目標②については、本年度卒業生のうち保健師として就職を希望した学生は2名であった。2名とも本人の希望どおりに行政保健師として就職した。
2）研究活動
研究テーマ： ナイチンゲール文献から見た公衆衛生看護の本質
研究の現状：現在進行中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）
3）社会的活動等
全国保健師教育機関協議会ブロック理事､兵庫県看護系大学協議会公衆衛生看護学実習委員会委員

今後の課題

2022 年度から始動する新カリキュラムを見据え、授業、実習の具体的な準備を進める。

教員名	藤原　桜	所属学科	保健科学部　看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会委員、臨地実習委員会委員、広報委員会委員、国際交流センター委員、高大連携委員会委員（明石南高校担当）				
クラス担任	1年Aクラス（1年学年担任）	クラブ顧問	ヨガ・アロマ部		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習、看護研究、医療と文化（子ども教育学科2コマ）				
担当科目コマ数	24.43				

本年度の課題

1.　教育活動：看護技術の教育方法・内容の充実を図る。自分自身も省察的教育者としての力を培う。
2.　研究活動：研究ブランディング事業ユニット研究の成果公表。
3.　社会活動：人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動を継続する。

本年度の目標

1.　教育活動：看護技術の教育方法および内容の充実を図る。また、リフレクティブな看護実践能力を育む、さらに、自分自身も省察的教育者としての力を培う。
2.　研究活動：研究ブランディング事業ユニット研究の成果公表。
3.　社会活動：人々の健康とQOLの向上に貢献できる社会活動。

主な活動内容

１）教育活動：主担当科目（基本看護技術Ⅲ）では、TBL・フルスケールシミュレーションを取り入れ、より実践的な演習を行った。また、リフレクディブジャーナルを取り入れ

学生の省察的態度を育んだ。一方で自身は、学生のリフレクディブジャーナルから自己の指導を俯瞰的に振り返るよう努めた。結果、学生からの授業評価も高く、本年度の目標1は、概ね達成できたと考える。

２）研究活動：研究代表者として研究ブランディング事業のユニット研究成果を公表した。また、共同研究者として3本の研究を行った。これらのことから、本年度の目標2は概ね達成できたと考える。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照。学会発表（1回）学術論文（4編）

３）社会的活動等：【講演】1.本学公開講座：アロマセラピー。2.本学子育て支援施設ときわんモトロク：アロマセラピー。3.本学子育支援施設ときわんクニズカ：アロマセラピー。4.フォレスト垂水：講演とアロマハンドマッサージ**【非常勤講師】**1.兵庫県立明石南高校（高大連携）**【まちの保健室】**1.健康相談 2.アロマセラピー（ハンドマッサージ）を行った。**【救命講習】**駒ケ林中学校の講習で学生に救命処置指導を行った。これらのことから本年度の目標3は達成できたと考える。

次年度の課題

１．看護技術の教育方法・内容の充実（特に TBL・フルスケールシミュレーション）
２．テーマ別研究（2017 年度）の成果を公表する（論文）。
３．人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動を継続する。

教員名	黒野 利佐子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	国際交流委員・国家試験試対策副委員長・就職委員				
クラス担任	看護学科4年学年主任　Aクラス担当	クラブ顧問	英語同好会 陸上部顧問		
担当科目名	国際看護活動論・国際医療活動論II・看護技術　II/IV・活動基礎実習・看護研究・課題別実習・生活健康援助論				
担当科目コマ数	17.83				

本年度の課題

・国家試験対策におけるきめ細やかな個別の支援＊
・生活健康論の講義内容の工夫、もっと多くの学生に講義の主旨が理解できるための講義づくり
・多文化共生もしくわ　在留外国人の生活支援を、長田区や兵庫区の地域と関連施設をフィールドにアクションリサーチを続行する

本年度の目標

・国家試験対策における成績低迷者に対する指導を徹底して全員看護師国家試験合格
・生活健康論の講義内容を学生が楽しく自主的に学ぶ
・長田区と兵庫区の地域と関連施設と協力し合って、在留外国人の生活支援に関わりながらアクションリサーチを続行する。

主な活動内容

1） 教育活動

2） 国家試験対策では例年の通り、下位20名を対象に面接や解剖生理の講義を提供したり、個別な相談にも応じてきめ細やかに関わったが、４人の不合格者をだしてしまった。

基礎看護教育5年目、講義の担当・技術演習指導共に、参考書や視聴覚教材など補充しながら、毎年知識も技術面でも工夫しながら教えることができている。

生活健康論の講義に、今年は外部講師の亀谷部長をお迎えして3回講義いただいたことで、生活と実際の看護がどのように結び付くのか、ナイチンゲールの看護覚え書き、臨床経験から読み解いていただけ、学生の学習意欲が高まった。学生個人の生活健康プロジェクトでは、発表の仕方や採点、選抜方法を前もって周知すること、90分の授業だけでなく、グループ内で選抜された発表をしっかり聞く場を追加して設けたことで、昨年までは学科平均にも達しなかった授業評価が総合評価で4.5と学科平均の4.1を超え躍進した。

2）研究活動

研究テーマ：地域における共生社会の実現に向けた総合的研究：長田区・兵庫区を中心に

研究の現状：「長田区と兵庫区の NPO，病院、学校、自治体、などと連携し、在留外国人の健康・教育・アイデンティティをめぐる現状について調査・分析し、よりよい共生社会の在り方の構築の礎となる基礎的資料を得ることを目指す。」という目標をもって取り掛かった一年であった。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　1　回）　論文（　　1　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

兵庫区では、留学生や技能実習生、外国の旅行客に宿を提供しながら日本語を教えたり、日本の生活になじむ研修などを手掛ける NPO　ONESELF 理事長と連携し、留学生の健康支援や、ヴィエトナム人研修生の健康講座の担当を二度続けて依頼されるなど、調査対象者のフィールドに入って連携を広めることが出来た。また 10 月には屋外の結核健診の際にときわ健康キャラバン隊と称してタカトリカトリック教会近隣の在日外国人と本学が遠くて足を延ばせない地域住民の健康支援活動の足場を作った。年末までの活動結果をまとめ、第 31 回西日本保健医療学会の口頭発表予定で抄録集に収めた。

韓国との国交悪化が報道で取り上げられる中、本学社会連携課の内橋氏の尽力で7月　16日韓国は大邱からの医療系学生を迎え、彼らの移民労働者を対象とした健康支援活動と本学の支援活動について発表をするとともに、本学看護学科学生との交流を深めることが出来た。その様子は神戸新聞で掲載され、年末の韓国出張の際には、彼らの活動状況を視察することが出来た。

国際保健や感染症対策については、FM ワイワイ長田で、情報弱者に陥りがちなラテンコミュニティに向けて、コロナ感染について基礎的知識と予防法などについて周知できた。30 分以上にわたる話が「コロナ感染は心配ない感染症」と換骨奪胎の取材・編集に閉口

したが、その様子はABC放送のキャストという番組で2月13日放映され、再びFMわいわいのYY論説番組において「医療社会学から見た2020年コロナウィルスの社会の動き」というテーマで論説を要請され、4月4日放映予定。神戸新聞の取材も同時に受け、3月27日朝刊に記事が記載され、多少は大学のPRにも貢献できた。
今後の課題・目標
・国家試験対策における大胆な改革を行って学生の意欲の向上を図り全員合格を目指す ・多文化共生・在留学黒人の生活支援において、アクションリサーチを継続する。 ・老年看護に数年のブランクを経て戻るため、新たな知見や教材を学習しなおし、老年看護に学生が興味をもって意欲的に取り組めるよう講義や演習を工夫する。

教員名	島内 敦子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員会、就職委員会（副委員長）、ハラスメント委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論、看護対象論Ⅳ、母性援助論、母子支援実習Ⅲ、課題別総合実習、大学miniゼミ、看護研究演習				
担当科目コマ数	22.57				
本年度の課題					
① 講義内容の精選 ② 神戸大学周産母子センター開催「ハッピーかるがもの会」の協働企画の充実と内容の拡大					
本年度の目標					
① 講義内容の工夫と学生の主体的が学修支援を行う ②学生主体の協働企画の内容を吟味し、充実を図った。					
主な活動内容					
1)教育活動 母性看護学概論から母性援助論、母子支援実習Ⅱまでつながりのある教育内容に徹底することに心がけ、学生が母性の対象や個に応じた看護援助について学習できるように講義、演習内容の充実を図った。その一環として、分娩期・産褥期の演習に4年生に依頼し屋根瓦教育を行い、効果を検証する。 学生の主体的な学びを触発するために、看護対象論Ⅳでは生殖医療に関する倫理についてディベート、母性援助論ではロールプレイを取り入れた。このことにより学生自身が主体的学ぶ方法や喜びを感じる講義内容ができたと考える。これについては、学生からの授業評価においても好感触であった。 2)研究活動 研究テーマ： 母性看護学における屋根瓦教育の効果					

研究の現状：研究倫理審査掲出
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　1　回）　論文（　1　編）　著書（　　冊）

3)社会的活動等
①甲子園短期大学　性教育講義
②高大連携　明石南高校授業　1回（性教育）
③高大連携　神戸鈴蘭台高校授業　1回　（性感染症）

今後の課題

神戸大学周産母子センター「かるがもの会」の充実を図るとともに、同様の内容を実習病院にも開催できるような基盤を構築する。
授業内容（特に屋根瓦教育）の効果についての検証を続けていく必要がある。
今後、離島に住む妊娠から子育て期にある女性への援助について検討する。

教員名	山口 有美	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	SD委員会委員、危機管理委員会委員、大学親睦会				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護活動基礎実習、基本看護技術Ⅰ、生活健康論実習、miniゼミB、基本看護技術Ⅱ、基本看護技術Ⅳ、基礎看護学実習、課題別総合実習看護学研究、医療経済学、感染看護学				
担当科目コマ数	24.6				

本年度の課題

①3 年生の担任として学習面と学生生活面のサポート（継続）
②複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営(継続)
③臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導(継続)
④SD 委員会委員としての活動（継続）

本年度の目標

①3 年生の担任として学習面と学生生活面のサポート（継続）
②複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営(継続)
③臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導(継続)
④SD 委員会委員としての活動（継続）

主な活動内容

1）教育活動
①手厚いサポートを必要とする学生に対して面談を重ね必要なサポートを受けられよう適切に報告、連絡、相談行い年間を通して経過をフォローした。
②複数担当の科目責任者として、学習効果の向上させるため効果的な授業運営を行う為毎回教員間の調整を図った。また、学生個々の学習状況を教員間で共有を図り学習支援

を行った。
③manabaを活用した授業方法の工夫を行った。
③臨地実習では､実習目標を達成させるために学生個々の課題を考慮し指導した。
2）研究活動
研究テーマ：研究テーマ： 看護教育のプロンプト付加による記憶強化のための効果的なVDT画面設計
研究の現状：研究テーマに沿った文献等のサーベイを済ませ研究の準備を終了した段階
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　0　　回）　論文（　0　　編）　著書（　0　　冊）
3）社会的活動等
まちの保健室活動(ボランティア研修､KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタでの健康相談)
新長田ピフレにおける地域住民に対する健康相談会を計画し実施した。

今後の課題

・4 年生の担任として学習面と学生生活面のサポート（継続）
・複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営(継続)
・臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導(継続)
・SD 委員会委員としての活動（学科内 FD 活動の計画立案から実施評価）（新規）
・科学研究費の延長による最終年度の為停滞していた研究活動を活発化し国際学会を含む研究成果など公表活動

教員名	岩切 由紀	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員、看護学科臨地実習委員：副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	クリティカルケアⅠ・Ⅱ、看護研究方法論、療養支援実習Ⅱ・Ⅲ				
担当科目コマ数	24.4				

本年度の課題

1.クリティカルケアⅠの既習内容から実習での看護過程への連動を強化する
2.クリティカルケアⅡでは演習から呼吸・循環ケアをより具体・実践的な学習とする
3.療養支援実習Ⅱ・Ⅲのルーブリック評価導入後の検証（研究含む）

本年度の目標

1.クリティカルケアⅠの既習内容から実習での看護過程への連動を強化
2.研究の過程を含み療養支援実習Ⅱ・Ⅲのルーブリック評価導入後の検証を行う

主な活動内容

1）教育活動
（1）クリティカルケアⅠでは急性期の看護を理解するため高度侵襲下にある患者の看護と周手術期看護を具体的に理解できるよう展開した。特に基礎看護実習で展開した看護過程から手術を受ける患者の看護の事例展開により看護を構造的に考えるよう授業を進めた。例示→基礎学習→事例を反復しながら行った。構造的な理解は3分の1程度の学生

に止まるため、次年度も課題である。（2）クリティカルケアⅡ：呼吸・循環ケアの具体・実践的な演習を取り入れた学習の継続が必要である。
（3）療養支援実習Ⅱ・Ⅲはルーブリックを導入し評価を行った。複数の教員による実習運営のため成果を一つの基準とし、目的の達成が担保できる授業運営が必要である。
2）研究活動
研究テーマ：①個人：クリティカルケアにおける超急性期の概念分析
②療養支援領域共同研究：療養支援実習Ⅱルーブリック評価指標の妥当性の検証
研究の現状：①投稿に向け執筆中である。②データ収集と分析を行う段階である。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（共１回）　著書（分１冊/編集中）
3）社会的活動等
日本救急看護学会評議員：調査研究委員会で救急看護研究セミナーの企画と運営
令和元年 9 月 27 日（博多）救急看護研究セミナー（中級編）
令和元年 10 月 4・5 日（幕張）調査研究委員会活動報告
令和 2 年 2 月 9 日（博多）/令和 2 年 3 月 1 日（大阪）救急看護セミナー　中止

今後の課題

1. クリティカルケアⅠでの基本的な看護過程と急性期看護の理解から実習と連動させる
2. 療養支援実習Ⅱ・Ⅲのルーブリック評価導入後の検証（研究含む）による教育の統一
3. 理解しやすい看護研究方法論の展開と評価

教員名	西村 充弘	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	図書紀要委員・就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	精神看護援助論、看護研究、健康支援実習Ⅱ、課題別総合実習、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	22.27				

本年度の課題

本年度の目標

2019 年度、着任させていただいた。本学教員としての役割を果たすことが目標である。また、わかりやすい精神看護の授業をめざす。

主な活動内容

1）教育活動
講義・実習・看護研究指導を中心に学生教育活動を行った。
授業では、精神看護がイメージできるように、DVDや写真集の活用や自身の臨床体験などを加えイメージできるように努めた。授業評価では、「声が小さい」「早口」などの

意見もあり、次年度は気を付けていきたい。
2）研究活動
研究テーマ：依存症を持つ当事者と家族への支援
研究の現状：依存症家族支援のための介入プログラムの効果について検討中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
なし

今後の課題

・授業の中に兵庫精神医療の歴史について資料を整理し取り入れる。
・健康支援実習Ⅱ（精神看護）に関するルーブリック評価表を完成する。
・依存症家族支援のための介入プログラムの効果について公表する。

教員名	阿児　馨	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員会・就職委員会・まちの保健室・介護予防事業				
クラス担任	2年生クラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	看護教育論・老年援助論・看護活動基礎実習・療養支援実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・課題別総合実習				
担当科目コマ数	21.7				

本年度の課題

・　教材研究
・　他学科との合同演習の授業計画・調整
・　研究活動時間の確保

本年度の目標

・教材研究を行い学生に良質の課題を保証していく。
・口腔保健学科との合同演習の計画・調整を行い、円滑な演習を展開する。

主な活動内容

1）教育活動：新しく担当することになった「看護教育論」の授業単元の考察、評価。
合同演習は、口腔保健学科の教員と準備調整を行い演習計画、実施。その後演習のまとめより職種の違い連携についての学びを担当教員と確認、評価をした。
2）研究活動
研究テーマ：
①　「看護学生と歯科衛生学生との合同演習による専門職連携教育の効果」（共同）
②「療養支援実習Ⅱ（疾病・障害をもつ人の看護）におけるルーブリック評価の現状」（共同）
③「技術教育における看護学生の情意領域の変化：職業的アイデンテイテイ評価と学内

演習後のレポート分析」（共同）
④外国人技能実習生に関連する研究
研究テーマの現状：
① 日本老年看護学会第24回学術集会ポスター発表（共同）長期的視点でデーターの解析中。現在関連学会へ演題申請中。
② テーマ別研究として、評価の妥当性を領域の教員と検討し、解析をしていく。
③ 神戸常盤大学紀要13号へ掲載。
④ テーマ別「地域における共生社会の実現に向けた総合的研究」の協力者として活動中。主に技能実習生の健康生活への講座、健康相談を行っている。
本年度の研究業績：「研究実績報告書」を参照
研究の現状：
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　２　回）　論文（　１　編）　著書（　　冊）
3）社会的活動等
はすいけデイサービスへのまちの保健室ボランテイア活動（３回）神戸常盤大学の介護予防事業として講座と体操他（２回）。神戸西部支部まちの保健室ボランテイア活動研修会企画・運営。神戸常盤大学まちの保健室活動参加。
進学相談会（看護学分野説明会）７月 兵庫県尼崎小田高等学校

今後の課題

１）感染症拡大などの緊急事態に備え、学生への対応と学習保証
２）授業形態の工夫
３）研究活動を計画的に進める

教員名	永島　聡	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会、健康保健センター(学生相談室)、地域交流センター(B)、教職支援センター				
クラス担任		クラブ顧問	軽音楽部		
担当科目名	教育心理学、生徒指導論、教育相談、養護実習Ⅰ、事前及び事後の指導、養護実習Ⅱ、教職実践演習(養護)、看護学研究、教育相談、生徒・進路指導論、大学道場miniゼミA、まなぶる▸ときわびとⅠ、まなぶる▸ときわびとⅡ、心理臨床学、心理臨床学、人間関係論				
担当科目コマ数	14.0				

本年度の課題

- 新たな心理学的知見の獲得
- 学問を学生とともに楽しむ能力の更なる向上

本年度の目標

● これまで持っていなかった心理療法理論に関する知識を新たに１つ以上獲得する。 ● 受講者数の多い授業である「人間関係論」「心理臨床学」の「学生による授業評価調査」において、「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった」「自分にとって新しい考え方・発想を得ることができた」「この授業を受けて満足している」の項目についてそれぞれ平均４点以上を目標とする。
主な活動内容
1）教育活動 ● オープンダイアローグおよびメンタライジングについての知見の獲得 ● 視聴覚教材の駆使、講義における言葉の選び方、学生との直接的やり取り等、授業方法の工夫 上記の活動等により、本年度に関しては授業評価の目標点数は達成できている。 ● 「学生相談サロン」等における学生相談活動 上記の利用者は実人数51名、延べ人数140名であった。 2）研究活動 研究テーマ：教育相談へのフランクル理論の応用 研究の現状：特別支援学校等での教育相談活動において実践および情報収集中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 2編） 著書（ 冊） 3）社会的活動等 ● 高等学校、特別支援学校等での教職員研修
今後の課題
● 心理学的知見の深化 ● 学問を学生とともに楽しむ能力の更なる向上

教員名	中村 由果理	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会・広報委員会・神戸常盤地域交流センター・国家試験対策委員会				
クラス担任	3年生Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	基本看護技術Ⅰ～Ⅲ、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、課題別実習、看護教育論、看護学研究				
担当科目コマ数	25.6				
本年度の課題					
学生個々を大切にした教育を実践していく。 研究活動の充実を図る。					
本年度の目標					
１． 基礎看護学の授業を通して学生個々と向き合い看護実践につながる教育を行う。 ２． 看護学実習における看護教員の関わりについて研究を進めていく。					
主な活動内容					

1） 教育活動

基本看護技術Ⅰにおいては、寝衣交換・栄養摂取・食事の援助に関する講義を担当した。

基本看護技術Ⅱにおいては、呼吸を整える技術・栄養管理に関する看護に関する講義を担当した

基本看護技術Ⅲにおいては、筋骨格筋系のフィジカルアセスメントに関する講義を担当した。

看護教育論では、継続教育の現状と課題についての講義を担当した。

看護学研究では、看護学生の看護観の変化や学生の看護学実習でのコミュニケーションについて指導した。

2)研究活動

研究テーマ： 看護学実習教育に関する研究

研究の現状：テーマ別研究に「学生が看護学実習において学習意欲が向上したと感じた教員の間主観的な関わりー学生の視点からー」採択されデータ収集を行った。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（ 1 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊）

3)社会的活動等

神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科、理学療法士科に「吸引」に関する講義を行った

今後の課題

基礎看護学の授業を通しておおむね達成できた。

研究活動として、看護学実習における看護教員の関わりについて明らかにしていくため、本年度は実習における学生と教員との間主観的関わりについて研究計画書、研究倫理審査を終え、データを収集できた。今後は研究発表を行い、論文投稿していく。

教員名	江口 実希	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験委員会、実習委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	精神看護特性論, 精神看護援助論, まなぶるときわびとⅠ, 看護研究, 健康支援実習Ⅱ, 課題別総合実習, 看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	24.23				

本年度の課題

学生の個別性に配慮した教育、社会活動と研究活動の充実が課題であった。

本年度の目標

学生教育では、実習での学生支援（学生が個々の課題に向き合い、自己の課題の明確化と課題の達成に向けた取り組み、自己の行動の振り返りが出来るように具体的な達成目標の設定を特に支援）と、講義内容の見直し、充実のため自己研鑽（外部研修への参加）。

研究活動では遅延している研究の遂行（データ収集、分析）、社会活動では社会貢献活動への参加を目標とする。
主な活動内容
1）教育活動 講義・実習・看護研究指導を中心に学生教育活動を行った。 担当領域の精神看護学領域では、学生の講義科目での知識定着の強化、臨地実習での知識の抽象から具体化の支援を目指した。講義科目では外部講師とシラバス内容の打ち合わせを行い系統的な知識の定着を目指した。 2）研究活動 研究テーマ： .反すうに着目した抑うつ防止プログラムの開発-看護師が行う新しい認知行動療法 研究の現状：「反すう」に着目したプログラムの効果評価を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（１回）　論文（３編）　著書（0冊） 3）社会的活動等 社会貢献活動に参加できなかった。
今後の課題
教育では、講義内容の充実化が課題である。学生による授業評価項目の全体的低下があり、授業内容・授業方法など見直し、充実を図ることが課題である。また、実習満足度では学生アンケートは高評価であったが回収率が低く、実習内容を反映しているとは言い切れない。臨地での指導内容の充実も課題である。目標であった社会貢献活動は実施できず、少しでも社会貢献ができるようにすることが課題である。

教員名	伊東 美智子	所属学科等	看護	職名	助教
委嘱委員・職務	看護師国家試験対策委員、まちの保健室				
クラス担任	N4	クラブ顧問			
担当科目名	母性援助論、母子支援実習Ⅲ（母性）、課題別総合実習、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	31.37				

本年度の課題
①4 年生の担任及び看護師国家試験 4 年生担当として、役割を果たす必要がある。 ②母性看護学教員として、役割を果たす必要がある。 ③研究発表したものの論文化が遅れており、博士課程（後期課程）での研究活動と大学本務との両立が未知数である。
本年度の目標

①4 年生の担任及び看護師国家試験 4 年生担当として、役割を果たすことができる。
②母性看護学教員として、役割を果たせるように努める。
③研究発表したものの論文化が遅れているので、博士課程（後期課程）での研究活動と大学本務との両立に励む。

主な活動内容

1）教育活動
①看護師国家試験合格率100％を目標にかかげ､3月末から学生の学びを促すように新しい取り組みを仕掛けた。後期には学生の家庭における問題が明らかとなる事例もあり、担任として、丁寧かつ慎重な対応に心掛けた。他教員や委員会メンバーとの協働も図りつつ、年間を通じて4年生の学びを支援していったが、合格率は95％に届かなかった。
②学生個々の特性への配慮が求められるので、実習ごとに学生のレベルや状況に合わせた指導が出来るように、上司や科目担当教員と連絡を密に取り合いながら臨んだ。
2）研究活動
研究テーマ： ①社会人経験看護師と社会人経験看護学生、②離島の母子保健研究
研究の現状：①収集したデータの分析に時間を要しており、部分的内容の示説発表までは行ったが、論文にまではなっていない。②今年度の取り組みとして、島根県隠岐諸島海士町からの母子保健支援の依頼を受け、島内准教授と赴いた。その後、在島の母親と座談会を持ち、島の保健師の活動を聴き取った。これは、日本母性看護学会の研究助成として採択された。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　5　回）　論文（　1　編）　著書（　0　冊）
3）社会的活動等
・本学まちの保健室活動（子育て支援）と、母乳育児支援活動に１回ずつ協力した。
以上より、目標達成は項目個々によって達成度に違いがあると考える。

今後の課題

・母性看護学教員として役割を果たせるように、継続して努める。
・本年度、科研費申請が採択されたので、それとも併せて博士課程（後期課程）での研究活動と、大学本務との両立に励む。
・体調管理に留意する。

教員名	尾﨑 優子	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	SD委員会　委員 看護学科　就職委員会　委員 看護学科　臨地実習委員会　委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護対象論ｖ、小児援助論、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、母子支援実習Ⅰ、課題別総合実習、まなぶるときわびとⅠ、地域との協働A				

担当科目コマ数	26.63

本年度の課題

・　小児看護学関連授業に関しては、次年度は講義担当コマ数を１つでも増やす。また、開発中の看護対象論ｖの演習（ときわ幼稚園での学外演習）を継続して取り組む。
・　研究活動に関しては、研究論文を１編以上投稿し、学会発表を少なくとも１回以上行う。
・　研究ブランディング事業チームにおける研究活動を継続し論文作成を行う。
・　新たに委嘱された臨地実習委員会委員としての職責を全うする。

本年度の目標

・　小児援助論：講義担当コマ数を３つ以上担当する。
・　看護対象論ｖ：ときわ幼稚園園児を対象とした計測・バイタルサイン測定演習の企画・実施
・　学科テーマ別研究「地域活動拠点において看護学科が提供する All Generation の健康支援に向けた実践モデルの検討」（代表者：庄司靖枝教授）に関する学会発表
・　.私立大学ブランディング研究「子育て支援を活動分野とするサービスラーニングの特徴と課題に関する文献検討」（紀ノ岡浩美助教との共同研究）に関する本学学術フォーラムでの発表ならびに論文作成

主な活動内容

1）教育活動
・　各科目授業の実施（3コマ）および補佐、学内演習実施
・　看護対象論ｖにおいて、ときわ幼稚園園児を対象とした計測・バイタルサイン測定演習を企画・実施した。
・　各臨地実習指導、レポート指導、実習評価および臨床指導者会への出席
・　基盤教育分野（前期まなぶる、地域との協働Aのうち1コマ分）の授業の実施

2）研究活動
研究テーマ：
1.小児看護学演習の開発に関する研究
2.平成30年度テーマ別研究「地域活動拠点において看護学科が提供するAll Generationの健康支援に向けた実践モデルの検討」（代表者：庄司靖枝教授）
3.私立大学ブランディング研究「子育て支援を活動分野とするサービスラーニングの特徴と課題に関する文献検討」（紀ノ岡浩美助教との共同研究）
4.平成31年度テーマ別研究「地域における多文化共生社会の実現に向けた総合研究：長田区・兵庫区を中心にして」（代表者：濱田道夫学長）
5, 博士課程における研究
研究の現状：
1に関しては、成果を関連学会で代表者が発表した。継続中。
2については研究年限が1年間であったため、私立大学ブランディング研究の枠組みで継続中。
3は、学術フォーラムで共同研究者が発表した。継続中。

4は、研究協力者としてアクションリサーチに参加中。5に関しても継続中。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　2回）　論文（　　0編）　著書（　　0冊） 3）社会的活動等 特になし
今後の課題
各授業科目の担当数を目標通り増やすことができ、また、演習企画・実施も継続して行うことができた。これまでは実施することが目標となっていたため、実習での評価や国家試験対策との関連も考慮した評価ができるよう努める。また、本年度は委員会活動が増えたが、職責を全うすることができた。研究活動においては参加する研究チーム数は増加したが、論文投稿が課題である。 【次年度の目標】 ・　小児看護学関連授業担当数をさらに増やし、実習と関連付けて評価していく。 ・　上記委員会に加え、新１年生の担任としての職責を果たす。 ・　学会活動、論文投稿を積極的に行う。査読付き論文１篇以上投稿する。

教員名	紀ノ岡 浩美	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国際交流委員会、国家試験対策委員会、研究ブランディング事業				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	まなぶるときわびとⅠ、課題別実習、活動基礎実習、基礎看護学実習Ⅰ、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ、地域との協働				
担当科目コマ数	27.53				
本年度の課題					
修士課程を卒業する テーマ別研究を行なう 研究ブランディング事業の一環としての研究を継続する					
本年度の目標					
今年の夏に修士課程を卒業する テーマ別研究を論文にまとめる 研究ブランディング事業での研究を継続して実施する					
主な活動内容					
1）教育活動 地域との協働にて「サービス・ラーニング」に関する講義を実施。 各実習における実習指導					

まなぶるときわびとⅠにて学生への講義及び指導を実施。 2）研究活動 研究テーマ： 療養支援実習Ⅱにおけるルーブリック評価基準の妥当性の検討 研究の現状：2020年3月に倫理審査を通過した。今後は研究方法に則り研究を進めていく 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3）社会的活動等 健康フェスタにおける健康相談。
今後の課題
博士後期課程に進学する テーマ別研究を終了させ、論文としてまとめる 研究ブランディング事業の一環としての研究を論文としてまとめる

教員名	坂井 利衣	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務					
クラス担任	新２年生	クラブ顧問			
担当科目名	小児対象論、小児援助論、母子支援実習Ⅰ、まなぶる				
担当科目コマ数	24.03				
本年度の課題					
・本学初就任のため本学生の学習状況や動向を掴み教育的課題の明確化に努める。 ・研究テーマを絞り込む。					
本年度の目標					
・積極的に教育方法の検討や改善を図る。 ・研究業績を１つ以上出す。					
主な活動内容					
1）教育活動 ・主に母子支援実習や課題別実習（小児）などの臨床場面における学生の学習支援に力を注いだ。 2）研究活動 研究テーマ： 病院に就職した新人看護職者の職場適応プロセスに関する研究の動向と課題					

研究の現状：我が国における研究の取り組みは20年程前から行われており、職場適応に影響する要因はこの20年間大きな変化はないと考えられた。しかし2017年にの離職率は過去5年以上横ばい状態であり、今も職場適応について問題視されている現状がある。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　回）　論文（　2　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 　まちの保健室ＫＩＴで子育て支援事業に参加した。
今後の課題
・小児分野における研究テーマで業績として成果をだす。 ・臨床実習での学習効果が図れるよう学内授業の方法の工夫に努める。

教員名	松岡 真菜	所属学科等	保健科学部看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	臨地実習委員会、KTU				
クラス担任	2年生Bクラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	なぶるときわびとⅠ　看護活動基礎実習　課題別総合実習　基礎看護学実習Ⅰ　療養支援実習Ⅱ　療養支援実習Ⅲ				
担当科目コマ数	27.67				
本年度の課題					
テーマ別研究を行う					
本年度の目標					
テーマ別研究の論文を作成する					
主な活動内容					
1）教育活動 実習指導 2）研究活動 研究テーマ：　ルーブリック評価 研究の現状：データ収集 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　1　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等					
今後の課題					

テーマ別研究を行う

教員名	光安 早織	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	地域交流センターB 健康管理室				
クラス担任	1年生Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	基本看護技術Ⅲ 看護活動基礎実習 基礎看護学実習 健康相談の理論と方法 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ				
担当科目コマ数	27.0				

本年度の課題
教育現場での大学生への教授方法の理解が不足している。
本年度の目標
・教育の現場に初めて立つため、授業設計、講義・演習指導案について自己学習と授業の見学を通して全体像を把握し、授業の運営・教授方法について理解を深める。 ・実習では指導案を立て、実習の展開を行う。
主な活動内容
1）教育活動 2）研究活動 研究テーマ： 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 まちの保健室での健康相談 長田区フェスティバル オリーブ等の地域交流合宿プロジェクト
今後の課題

今年度は研究活動ができていないため、研究計画書を作成し、研究活動につなげる。
どのような研究への応募ができるのか情報を集める。
授業案の作成を行い、指導の基でも授業を行い、授業の展開や振り返りを行い教授の質を高める。

３．教育学部こども教育学科　個人年間活動報告書

教員名	大森雅人	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学部長、子育て総合支援施設KIT運営員会委員長、IR推進部部長 学園一体化推進協議会、運営委員会、学長会議 教職支援センター、IR推進プロジェクト、情報インフラ整備ユニット				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	保育内容（環境）、保育・教育課題研究Ⅰ 教職実践演習（幼稚園・小学校）、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、教育と情報、教育方法・技術論 保育実践演習、情報メディア演習				
担当科目コマ数	10.07				

本年度の課題

・平成 31 年度からの新教育課程が円滑に立ち上がるように管理運営する必要がある。
・研究ブランディング事業の最終年度として、一定の成果を上げる必要がある。
・引き続き、科研費研究を推進する必要がある。

本年度の目標

新教員養成課程・新保育士養成課程の立ち上がりが円滑に進むように管理運営する。
研究ブランディング事業の最終年度を推進して一定の成果を得られるようにする。
科研費研究をさらに推進する。

主な活動内容

1）教育活動
通常の授業担当の他に、学部長として新課程の立ち上がりの管理運営に携わった。
2）研究活動
研究テーマ：保育者養成教育の効果をより高めるための研究
研究の現状：科研費のテーマである、「「幼児が法則性に気付く体験」に繋がるような環境構成を立案できる保育者の養成の研究」を中心として研究に取り組み、その成果は複数回にわたり学会発表することができた。よって研究に関しては、着実に成果を積み上げていると言える。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（３回）　論文（１編）　著書（１冊）
3）社会的活動等
高大連携事業の一環として、神戸鈴蘭台高校、三木北高校で講師をした。川西市の公立幼稚園の研修の指導を行った。研究ブランディング事業に関して、事業の推進に一定の貢献をした。他に社会福祉法人（保育所経営）2 法人の評議員を務めた。

今後の課題

学科の強み・弱みに対応した新たな学科のあり方を構想して推進する必要がある。
科研費に関わる研究を引き続き推進する必要がある。

教員名	光成　研一郎	所属学科等	こども教育	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、教職支援センター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	テニス部		
担当科目名	「教育原理」・「教育方法・技術論」・「卒業研究Ⅰ」・「卒業研究Ⅱ」・「卒業研究Ⅲ」・「卒業研究Ⅳ」・「まなぶる▸ときわびとⅠ」「まなぶる▸ときわびとⅡ」・「キャリア基礎」・「大学道場ミニゼミ」・「教育と人間」				
	9.97				

本年度の課題

今年度で 3 年目を迎える「まなぶる▸ときわびとⅠ」、「まなぶる▸ときわびとⅡ」の科目責任者として、来年度は授業のねらい、教育内容及び方法について一層の学内発信、共有を図る。またさらなる授業改善も図る。

本年度の目標

基盤共通科目「まなぶる▸ときわびとⅠ」、「まなぶる▸ときわびとⅡ」のねらいや教育内容及び方法について学内発信を行い、学内共有を図り、授業改善も行う。

主な活動内容

1)教育活動

「まなぶる▸ときわびとⅠ」、「まなぶる▸ときわびとⅡ」の科目責任者として、科目の運営、取りまとめを担った。チームベースド・ラーニングを通して、ジェネリックスキルの養成を意図し、学びの可視化を実現するとともに、学生の振り返りを重視するためにマナバを授業活用した。また小学校教諭および養護教諭採用試験対策に取り組んだ。

2)研究活動

研究テーマ：「教員のチームビルディングで進める初年次教育**プログラム**」

研究の現状： チームベースド・ラーニングで育成したいと考える思考力やジェネリックスキルはデューイのいう「経験」の連続と相互作用を通じて育成されると考える。学習者の学びを可視化し、経験の連続性と相互作用性を学習者に認識させることがそれらの育成に結びつくと考えている。

本年度の目標として掲げた上記科目の学内発信を行い、学内共有を図るべく、本学で開催された第46回教育サロンin関西、テーマ「教員のチームビルディングで進める初年次チームベースド・ラーニング」において、主催大学として発表を行った。また八王子市創価大学で行われた初年次教育学会において、「組織開発（Organization Development）を活用した初年次教育プログラムの実施と評価」をテーマに、発表した。

学会発表（3回）　論文（2編）　著書（2冊）

3)社会的活動等

「ブランディング事業」採択に伴い、学内および学外の方々と連携し、「地域とともに歩む常盤大学」の醸成に尽力した。

今後の課題

教育に関しては、来年度で 4 年目を迎える「まなぶ▸ときわびとⅠ」、「まなぶ▸ときわびとⅡ」の科目責任者として、R 科が新たに新設されたことで生じる課題に対処する。研究面では、科研費に採択されたテーマ「教学 PDCA のための ICT を活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」に取り組む。

教員名	多田　琴子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員　就職委員				
クラス担任	２年生	クラブ顧問			
担当科目名	基礎研究演習Ⅱ 教職論 保育内容（健康） 保育課程論 保育指導法 教育実習指導 教育実習 教職実践演習（幼稚園・小学校）他				
担当科目コマ数	14.73				

本年度の課題

・保育者養成コースの学生の「保育者としての力量形成」に向けて充実指導にあたるとともに、公立保幼並びに私学幼稚園就職に向けて、適切な環境作りと助言を行う。
・実践に寄与する研究パラダイムの構築をめざし、保育の実践を「学」にする取り組みの一環として、幼稚園見学研修・他大学学生や現場保育者との研究会を企画し、学生と現場をつなぐ。

本年度の目標

・附属ときわ幼稚園に協力を願い、昨年に引き続き学生の空き時間に「保育者としての力量形成」に向けた「空きコマボランティア」を行い、学生の学びをデーター化して課題と有効性を探る。
・教育実習指導に於いて附属ときわ幼稚園の環境構成の意図を解説し、実習前指導の充実を図る。
・保育実践の質が問われている意味について、就職を控えた 4 年生ゼミ生に伝える為に、ゼミ指導の充実と他大学学生や現場保育者参加の『保育の実践を「学」にする研究会』を企画開催する。

主な活動内容

1）教育活動
・保育者養成コース学生（２年生）の保育者としての力量形成を目指した取り組みとして、昨年に引き続き授業の空き時間を活用して附属幼稚園のボランティア活動を行った。更に、基礎研究演習Ⅱの授業の中で、実践活動による学びの自覚化を図った。
・学生自身の進路決定の材料となる模試受験を正課外で行い、対策と課題を提示した。積極的に働きかけた結果として、公立の保育士として、赤穂市、神戸市、尼崎市、大阪市、豊岡市の公立保育所就職(計８名)が就職した。
・卒業研究Ⅰ・Ⅱ（３年生）卒業研究（４年生）・教育実習指導（３年）・教職実践演習（４年生）において、幼稚園見学研修や解説を行い、保育の意図を持つことやそのための環境構成など、学生の保育現場イメージを高めることが出来た。

2）研究活動
研究テーマ：保育者の職能形成／幼児期にふさわしい生活を支える保育の創造
研究の現状：保育現場と協働関係を築きながら継続的に、教員研修・園内研修・自主的研究会等を進めた。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（４回）　論文（３編）　著書（２冊）

3）社会的活動等
・附属幼稚園とのコラボ事業「キッズクラブ」のコーディネート
・附属幼稚園　キッズクラブ講師（８回）園内研講師（３回）
・常盤女子高等学校模擬授業（オープンスクール・２年生）　講師
・神戸常盤大学地域子育てプラットホーム関連施設ときわんモトロク講師（２回）
・鈴蘭台高等学校～総合的な学習～授業　講師
・姫路市立飾磨幼稚園園内研修　講師（４回）
・市川町立認定こども園職員研修（２回）
・大阪市保育・幼児教育センター　保育内容人間関係研修　講師（２回）
・ひかりのくに異年齢カリキュラム　編集委員会委員（毎月１回）
・姫路市立幼稚園自主研修会　オブザーバー（毎月１回）
・幼保大連携自主研修（毎月１回）
・兵庫教育大学（保育内容言葉論）　非常勤講師
・保育虎の穴実践研研究会 in 神戸主催（KIT にて）

今後の課題

・公立幼保就職立向上を目指し、学科教員の関連授業内容を可視化し、学生の希望と特性に合わせた個別指導の充実を図る。
・昨年に引き続き神戸常盤大学附属ときわ幼稚園に協力を願い、学生の授業空き時間に「保育者としての力量形成」に向けたボランティア活動を推奨する。学生の体験的学びを自覚する場として「保育の計画と評価」の授業で実践と理論を融合する。
・幼稚園見学研修・他大学学生や現場保育者との研究会を企画し学生と現場をつなぐ。

教員名	瀬川和子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	玉田学園評議委員　運営委員会委員　入試委員会委員長 合否判定部会委員長　高大連携委員会委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	器楽ボランティア部		
担当科目名	音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、Ⅴ　教科指導法(音楽)、保育・教育内容研究（ピアノ実践奏法）、卒業研究、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				
担当科目コマ数	14.53				

本年度の課題
・教育：小免関連科目の教授法と教材に関する検討 ・研究：研究時間の捻出と継続的な取組み
本年度の目標
・教育：小免関連科目および採用試験内容を確認し指導法を検討すること。担当学生一人ひとりと向き合い、各学生の学習上の問題点とその解決法を共に探す。 ・研究：研究を何らかの形にまとめ発表する。
主な活動内容
・H.30 年 5 月ときわんモトロク　音楽講座講師　6 月附属ときわ幼稚園　ときわキッズ講師・H.30 年 9 月神戸常盤女子高等学校保育コース講師・県内高校ガイダンス（本学・学部・学科についての説明広報）
今後の課題
・ピアノ初心者が増える傾向にあるため、「基礎音楽Ⅰ・Ⅱ」の習熟度の向上 ・小免関連科目の教授法の改善、および教材研究 ・研究時間の確保

教員名	藤本　由佳利	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	就職委員会委員、ハラスメント防止対策委員会委員、個人情報保護委員会委員長				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	美術部		
担当科目名	基礎図画工作Ⅰ、図画工作Ⅱ、保育内容（造形表現）、 教科指導法（図画工作）、基礎研究演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ，Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ				
担当科目コマ数	13.27				
本年度の課題					
新カリキュラムに伴う新担当科目の授業方法・内容の充実 ４期生のキャリア支援 作品制作と発表					
本年度の目標					
2年生対象の担当科目では、少人数ゼミ制という特色と自身の専門性を軸として展開し、3年目を迎えて、さらに充実を図る。 5期生の希望進路達成への支援（模擬面接、面談、卒業生・実習園への紹介・巡回等）を行う。 一般社団法人　兵庫二紀展、二紀展、グループ展への作品制作と発表を行う。 目標達成度の評価：1. できた　2. ほぼできた　3. あまりできなかった　4. できなかった					
主な活動内容					

1)教育活動 2年生担任として面接等を通して、学生支援・理解につとめた。 授業補充時間を多くとった。 小学校免許状関連授業、保育士資格・幼稚園教諭免許状関連授業の充実を目指し、学会への参加、現役教員・保育士からのアドバイスも受け授業を展開した。 2)研究活動： 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表＜展覧会＞（４回） 3)社会的活動等 令和元年度兵庫二紀展　運営　2019.8
今後の課題
新カリキュラム授業の開始と展開 ６期生のキャリア支援 作品制作と発表

教員名	中田尚美	所属学科等	E科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会委員長、研究倫理委員会				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	食育研究会		
担当科目名	保育原理、保育内容総論、保育者論、保育内容（人間関係）、保育・教育メソッド、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、大学道場miniゼミB				
担当科目コマ数	11.77				
本年度の課題					
教育活動における授業内容の精選・授業方法の工夫 研究の推進					
本年度の目標					
担当科目における教育内容及び教育方法の充実を図る 論文作成を目指した研究活動の開始					
主な活動内容					
1）教育活動 学生の理解力を随時把握しながら、講義を行った。グループワークを多く取り入れ、 学生の自主的学習を引き出すよう心掛けた。 2）研究活動 研究テーマ：子どものことばを育む保育環境 研究の現状：情報収集と研究テーマの選択 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　1　冊）					

3）社会的活動等 ・神戸常盤大学公開講座（於：KIT）3月2日　講師　講演テーマ「モンテッソーリに学ぶ21世紀の教育」 ・キッズクラブ（於：神戸常盤大学附属幼稚園）講師　６月２８日、12月１１日、1月22日担当　テーマ「異文化に触れよう（6月七夕　12月クリスマス　１月お正月）」
今後の課題
研究の充実と論文の発表 学習進度が異なる学生への効果的な教育方法の探索

教員名	牛頭　哲宏	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	・こども教育学科教員養成コース長・ＫＩＴテクニカルアドバイザー・広報委員会副委員長・就職委員・教職支援センター委員・隣地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	アカデミックライティング（基盤）基礎研究演習Ⅰ（E1）基礎研究演習Ⅱ（E2）教科指導法国語（E3）教育実習指導（E3）教育実習（E3）教科指導法特論Ⅰ（E3）保育教育課題研究Ⅲ（E3）卒業研究（E4）課題別実習(E4)　教職実践演習（E4）教科指導法特論Ⅱ（E4）教科指導法特論Ⅲ（E4）				
担当科目コマ数	9.47				
本年度の課題					
●　私立大学研究ブランディング事業を通して、研究者としての関わり方を探る。 ●　学生が自ら学ぶ意欲を喚起するような講義を心がける。 ●　教員採用試験対策をさらに充実させる。					
本年度の目標					
●　小学校教員養成教育の充実を図る ●　子育て総合支援施設KITにおける授業の充実を図る					
主な活動内容					
1)教育活動 ・改定学習指導要領の内容に即した指導法を工夫し、教科指導法（国語）や教育実習指導を通して、小学校実習において力を発揮出来る学生の育成に努めた。 ・子育て総合支援施設KITにおける授業を設定し、基礎研究演習ⅠとⅡにおいて放課後の学習支援や保護者対応に関する実習授業の可能性を探った。 2)研究活動 研究テーマ：　アクティブ・ラーニングを支えるコミュニケーションの在り方 研究の現状：　自分の学びの成果を振り返る場を何度もくぐり、学修者自身がどのような					

学びを得たのかを振り返りメタ認知する過程について観察を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（0回）　論文（1編）　著書（0冊） 3)社会的活動等 子育て総合支援施設ＫＩＴ内の学習支援センター（てらこや）の運営に関する助言 公衆衛生看護学実習指導者連絡会での講演
今後の課題
●　子育て総合支援施設 KIT での実習の在り方を探る。 ●　学生が自ら学ぶ意欲を喚起するような講義を心がける。

教員名	橋本　好市	所属学科	教育学部こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	SD委員会委員、E科：就職委員長・臨地実習委員会委員、将来構想委員会委員、兵庫教育大学大学院指定校協定交渉等担当　他				
クラス担任	保育者養成コース長	クラブ顧問	ハローベビー部		
担当科目名	大学道場miniゼミB（基盤） 基礎研究演習（E1・E2） 保育教育課題研究（E2・E3） 社会福祉（E1） 子ども家庭福祉（E1） 相談援助（E2） 卒業研究（E3）、卒業研究（E4） 保育実習指導Ⅰ（E3）、保育実習Ⅰ（E3） 保育実習指導Ⅲ（E4）、保育実習Ⅲ（E4）				
担当科目コマ数	12.63				
本年度の課題					
本学科コース編成体制が落ち着き、2019年度入学者から保育士養成課程・幼稚園・小学校教員養成課程の新課程も一年を終えることができた。当面は、新・旧カリキュラムが混同するため、各コース所属学生の教育的支障（再履修の読み替え等）をきたさないように細心の留意をしていく。 周辺の保育士養成校が軒並み定員割れを常態化しつつあることから、本学科独自に定員充足に向けた課題を整理し、定員維持に向けて学科総力で学生募集に取り組む。 学生及び保護者の大学選択・入学決定要素の一つに就職内定率がある。したがって、入試と就職はリンクすると考慮し、就職率向上及び大手就職先の継続安定確保を維持する。 学科業務の適正な運用のために、コースの機動力を高めつつ、本学部の魅力を喧伝していく努力を怠らない。 また、大学業務と個人研究・社会的活動との両立を心掛けていく。				
本年度の目標					

・保育者養成コース長として、コースの特性を考慮した学生からの口コミ評価が高まるようなコース特性と学生ケアおよび卒業時の満足度向上に向けた運用を図る。
・本学及び所属学科の今後あり方について、社会的現状と周辺競合大学の状況を分析し、生き残りをかけた戦略構想を検討していく。
・保育士養成課程及び幼稚園教育課程の新養成課程の定着と適切な運用を図る。
・学科就職委員長として、公的機関への内定獲得率の向上を図る。
・平成 31 年度～平成 33 年度　文部科学省研究費補助金【基盤研究(C)】研究課題／領域番号 19K02655、研究課題名「障害等への偏見変容に向けたインクルーシブ保育と保育者養成教育のあり方に関する研究」（研究代表者：直島正樹 相愛大学教授）を遂行していく。

主な活動内容

1）教育活動
・兵庫県施設保育士養成協議会会長として、保育士養成大学と社会福祉施設関係連盟組織との人材育成・確保・定着への連携した取り組みを図ってきた。この活動は、保育実習の関係性だけでなく就職等にも学生への利益に繋がっている。
・本学が有益となる全国及び県内優良社会福祉法人（聖隷福祉事業団・神戸聖隷福祉事業団）との包括協定の締結ができた。本学の利益の一助となるよう、今後も自身の立場を活用しつつ尽力していく。
・担当科目について、所属学科学生のニーズに適した教授方法や最新情報等を踏まえ、学生の理解度と定着への工夫を図ったことで、授業評価の向上につながった。今後も講義内容を精査し、時代の動向に応じた内容を提供していきたい。
・保育者養成コースの特性である幼稚園・保育所に加え社会福祉施設への就職を定着させることができた。今後は、学生の将来生活の安定性という観点から鑑みて有意な職域である「警察・消防」関係への就職支援を拡大していく。
・5期生は求職者内定率100％の結果となった。四年制大学らしく一般企業への希望者が増加傾向にあるが、学科特性を踏まえ専門職領域への就活支援に力を入れていく。一般企業等への就職希望者には、キャリア支援課と連携を図りつつ支援していく。

2）研究活動
研究テーマ：
「障害等への偏見変容に向けたインクルーシブ保育と保育者養成教育のあり方に関する研究」（平成 31 年度～平成 33 年度　文部科学省研究費補助金【基盤研究(C)】研究課題／領域番号 19K02655）
研究の現状：平成31年度は、論文投稿、著書発刊、調査及び理論研究を進めている。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　3回）　論文（　0編）　著書（　4冊）

3）社会的活動等

・神戸大学 大学院　人間発達環境学研究科　非常勤講師（臨床心理実践演習） ・社会福祉法人　うるま福祉会　評議員 ・社会福祉法人　白百合学園　顧問 ・社会福祉法人　陽気会　評議員 ・尼崎市保育所設置法人等選定委員会　委員長 ・尼崎市立すこやかプラザ指定管理者選定委員会　委員長 ・尼崎市立保育所移管法人選定委員会　副委員長 ・尼崎市子ども・子育て審議会　特別委員（利用者負担検討部会 副部会長） ・日本保育者養成教育学会『保育者養成教育研究』査読委員 ・兵庫県施設保育士養成協議会　会長 ・文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業（保育分野における長期就労支援に向けたリーダー育成プログラム開発事業）」委員　　他多数
今後の課題
保育者養成コース長として、学生の安定確保に向けた方策を喫緊の課題ある。様々な情報媒体による宣伝はもとより、卒業時の満足度向上、つまり第一希望職種への内定確保が重要なキーワードとなろう。それがゆくゆくは口コミとして、上下左右の関係者に拡散されていくと考える。そのためには、コース特性を磨き、教育内容、学生ケア等を学科一丸となって取り組み必要がある。したがって、教員間のコンセンサスを高める学科運営を心掛けたい。 学科就職委員長として、公的機関への内定獲得率の向上に向けて、コース教員の担当を明確にした学生指導を図る必要がある。 平成 31 年度～平成 33 年度　文部科学省研究費補助金【基盤研究(C)】研究課題／領域番号 19K02655、研究課題名「障害等への偏見変容に向けたインクルーシブ保育と保育者養成教育のあり方に関する研究」（研究代表者：直島正樹 相愛大学教授）の二年目を迎えるため、計画にある海外視察を含めた研究を遂行していく。

教員名	笹井隆邦	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試問題作成委員・入試委員会・学習支援センターてらこや委員				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	人類と地球環境・地球と環境・コンピュータ演習Ⅰ・コンピュータ演習Ⅱ・理科・生き物と自然の力・卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ・基礎研究演習Ⅰ・保育・教育課題研究Ⅰ・保育実践演習・生物（通信）				
担当科目コマ数	12.03				
本年度の課題					
・学内業務に責任を持って取り組む。 ・学生に自然との触れ合いを体験させ、現場で対応できるよう資質を高める。					
本年度の目標					

・観察会や自然体験プログラム(キーナの森)への参加学生を増やし、多くの体験をさせる。
・離島の社会性ハチ類の研究

主な活動内容

1）教育活動
・学科内の卒業研究担当としてゼミの振り分け等を行った。
・1年生担任として、学生生活、幼稚園等の見学、就職への準備等に取り組んだ。
・学外での学生の自然体験活動は、あまりできなかったが、学内では裏山を使って自然環境づくり等の体験をさせることができた。
2）研究活動
研究テーマ：離島の社会性ハチ類の分布・生態調査
白色変異カスミサンショウウオの長期飼育と遺伝

研究の現状：201904012～14　渡名喜島にて調査

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照
3）社会的活動等
20190629　ライトトラップ　キーナの森　ひょうご環境創造協会　講師
20190803　明石川の生き物展　のあそびクラブ　桜が丘夏祭り　スタッフ
20190804　明石川の生き物調査　のあそびクラブ　講師
20190910　北六甲幼稚園　講演会　講師
20190917　育英幼稚園　講演会　講師
20190918　ときわ幼稚園　講演会　講師
20190927　六甲幼稚園　講演会　講師
20191005　第5回　北摂里山探検隊　「初秋の植物・昆虫・水辺の生きものを観察しよう！」　講師　主催：兵庫県阪神北県民局・北摂里山博物館運営協議会・阪神北青少年本部
20181024　「いろいろな種」　ときわ幼稚園　キッズクラブ　講師
20191116　第6回　北摂里山探検隊　「宝塚自然の家で里山保全と秋の自然探検」　講師　主催：兵庫県阪神北県民局・北摂里山博物館運営協議会・阪神北青少年本部

今後の課題

・学生の、様々な自然体験をサポートする。

教員名	脇本　聡美	所属学科等	こども教育	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会、SD委員会、国際交流センター、広報委員会、教職支援センター				
クラス担任	4年生Bクラス	クラブ顧問			

担当科目名	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、コミュニカティブイングリッシュ、英語教育論、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教科指導法特論Ⅱ、教科指導法特論Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、海外研修
担当科目コマ数	13.80
本年度の課題	
学生の学びが深まる授業を計画する 教育活動と研究をうまく融合する	
本年度の目標	
アクティブラーニングを取り入れた授業を実践すること 小学校英語教育教員養成教育をテーマにした研究を論文にまとめること	
主な活動内容	
1）教育活動 ・個人指導をした上でプレゼンテーションを行う課題やグループワークで行う課題を授業に取り入れるようにし、学生が主体的に学ぶ活動の充実を図った・ ・KITのてらこやで、2年生学生が児童に英語学習指導を行う活動を計画し、実施した。 2）研究活動 研究テーマ：小学校英語教育教員養成プログラム開発 研究の現状：前年度までに収集したデータを基に論文にまとめて投稿した 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　1　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 KIT てらこや講座英語プログラム講師 実用英語検定面接委員	
今後の課題	
学生が主体的に学べる授業を計画し実践すること 小学校をフィールドとした研究を進めること	

教員名	山下敦子	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員、臨地実習委員副委員長、ときわ教育推進委員会、 教職支援センター委員				
クラス担任	1年生（教員養成コース）	クラブ顧問			
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、教職論、国語、インターンシップA、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教職実践演習、教育実習、教育実習指導、卒業研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、介護等体験、教科指導法特論Ⅰ、アカデミックライティング(M,N,E)				

担当科目コマ数	14.47

本年度の課題

・ 1年生担任として、学生の進路、進路実現に向けた取り組みについて一層の支援や助言を行う。
・ 教育現場、外部機関との連携を図り、実践的研究を推進する。
・ 学生が「主体的に学ぶ」ことをめざした授業デザインと実践を行う。

本年度の目標

・ 基礎研究演習Ⅰと KIT との関連付けを図り、学生が早期から教育現場で実践を積み、学生の意欲向上につながるように実践と研究を行う。
・ 教育委員会との連携の充実を図り、教員の力量形成について研究を行い、論文としてまとめる。

主な活動内容

1）教育活動

● 授業の予習、復習について課題設定や資料提示を行い、学生が課題意識をもち自発的に学習する状況を設定した。
● 教育実習指導や教員採用試験対策指導等について、模擬授業・面接・小論文指導を行い、学生の資質向上に努めた。

2）研究活動

研究テーマ：① 長田区小学校における児童の学力向上にむけた授業改善
② 小学校インクルーシブ教育における国語科指導のあり方

研究の現状：

① 国語科指導において、言語活動を充実させることにより、児童の学習意欲の向上や学力の向上に成果があることを、神戸常盤学術フォーラムにおいてポスター発表した。

② インクルーシブ教育が各教育委員会で推進されている現在、国語科の指導における問題点を総説として明らかにした。神戸常盤大学研究紀要第13号に論文を発表した。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（ 2 回） 論文（ 1 編） 著書（ 1 冊）

3）社会的活動等

・ 「神戸市こどもの創造的学びに関する研究会」研究会委員、作業部会委員
・ 「神戸市授業改善推進モデル校」等への指導助言
・ 明石市教育委員会教育研究所スーパーバイザー（国語科教育、特別支援教育）
・ 枚方市教育委員会学力向上研修会、研究会の指導助言、講師
・ 大阪府主体的・対話的で深い学び（STF）の実現に向けた実践研究指定校への指導助言
・ 大阪市教育委員会がんばる先生支援事業に係る指導助言、講師
・ 第２６回国語教育研究大会　講師

・　「啓く国語の会」主宰、研究会を３回開催」 ・　大阪市幼児教育センター研修講師 ・　大阪市私立幼稚園連合会研修講師 ・　NPO 法人 ERP 教育研究所「教師力向上研究会」幹事、および講師 ・　法務省人権擁護委員会委員
今後の課題
〈教育活動〉 ・　教育実習指導、採用試験対策指導において最新の情報や傾向を元に指導助言を行い、採用実践を向上させる。 ・　1 年生担任として、学生の将来の進路決定、自己実現にむけて的確な助言、支援を行なっていく。 〈研究活動〉 ・　理論と実践の融合を図り、論文としてまとめる。 〈社会的活動〉 ・　外部機関との連携を密にし、本学の事業や学生の就職、指導に反映させる。

教員名	松尾寛子	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	こども教育学科臨地実習委員会（委員長）、こども教育学科就職委員、子育て総合支援施設ＫＩＴ運営委員会委員				
クラス担任	4年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、障がい児の理解と支援Ⅱ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、基礎研究演習Ⅰ、基礎研究演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、保育実践演習				
担当科目コマ数	15.40				
本年度の課題					
・委員会活動等の学内業務について、昨年以上に時間を割き丁寧に職務を全うする。 ・社会的活動について、要請が増えてきているが、一つひとつ丁寧に取り組む。 ・教育活動について、社会的活動によっておこる時間の制約が学生に影響しないように最大限学生に費やす時間を捻出する。 ・研究活動については、学会発表と緑葉に投稿する。					
本年度の目標					
・委員会活動等学内業務への職務への積極的取り組み ・社会的活動に対する丁寧な取り組み ・学生や授業等学生の満足度に直結するよう、対面指導およびメールやポータル等での密な連携を図る ・緑葉への投稿					
主な活動内容					

1）教育活動

　学生が授業や授業の内容に興味を示すことができるように、昨年度に引き続き教材研究を行った。授業内容も学生のレベルを確認しつつ、現場での保育に役立つよう実践的なものも取り入れた。その結果、居眠りする学生が減った。

・授業内容について、ゼミの学生を中心として学外活動も取り入れた。卒業研究においては、就職活動への支援も並行して行うため、早期からの卒論指導を行った。学生には例年以上に計画的に指導を行った。

2）研究活動

研究テーマ：　保育の質理解のための教育プログラム開発

研究の現状：科研費への申請は行い、アンケートの案は考えたところにとどまり、それ以外具体的に進行できていない。今年度、学生の卒業研究への取り組みが非常に熱心で、卒論指導が例年以上に前倒しで、その指導のための時間を多く割き、自らの進度が遅れてしまった。そのため今年度緑葉への投稿はできなかった。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

　学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　1　冊）

3）社会的活動等

1. 障がい児保育分野/社会福祉法人都島友の会　保育士等キャリアアップ研修
2. 乳児保育/平成 31 年度加古川市保育士等キャリアアップ研修
3. 障がい児保育分野/子供の城協会夏期講座研修会
4. 乳児保育分野、障がい児保育分野 /兵庫県保育協会障害児保育研修会
5. 一人ひとりを大切にする乳児に対する保育/令和元年度丹波篠山市保育士研修会
6. その子の強みを活かす支援のあり方/みかり会職員研修
7 障害のある子どもの育ちを支える保護者と保育者との関係/尼崎市保育所職員専門研修
8. 保育実践分野/西脇市幼保交流研修会・保育士等キャリアアップ研修
9. 令和元年度西脇就学前教育・保育の質の向上推進委員会委員（訪問調査）
10. 乳児保育分野/加西市キャリアアップ研修
11. 令和元年度八尾市私立保育所巡回指導
12. 令和元年度尼崎市立保育所障害児保育巡回指導
13. 兵庫県社会福祉協議会保育ゼミナール
14. 子どもの理解と発達支援/兵庫県社会福祉協議会研修

今後の課題

・委員会活動等の新たな学内委員会活動に対する業務を覚えていく。学内業務の一つひとつについて丁寧に取り組み職務を全うする。

・社会的活動について、要請が増えてきているが、学内活動に影響がでないよう、精査できるところは精査する。

・教育活動について、授業改善や実習先の精査など学生に対する満足度がより高くなるように対面指導とポータル・メール等を使用して、計画的にかつ細やかな指導を行う。

・研究活動については、緑葉への投稿と科研費に採択されなかった場合は、科研費の申請書の練り直しを行い再度申請する。

教員名	高松　邦彦	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	KTU大学研究開発推進センター、ときわ教育推進機構、ライフサイエンス研究センター、自己点検委員会、図書・紀要委員会、情報インフラユニット、FAST等企画運営ユニット、IR推進プロジェクト				
クラス担任	3年B組	クラブ顧問	硬式テニス部		
担当科目名	保育・研究課題研究II、保育・研究課題研究III、卒業研究I、卒業研究II、卒業研究III、卒業研究IV、遺伝学、医療英語、医療統計学、文献講読、バイオインフォマティクス、保健統計学、プレゼンテーション技法、暮らしの中の数学、統計学、芸術文化論、まなぶるときわびとI,まなぶるときわびとII,超ときわびと、コミュニティデザイン				
担当科目コマ数	13.23				

本年度の課題

本年度は、こども教育学科に初めて来て 2 年めであり，担任などもしっかりと担当することを課題とした。

本年度の目標

こども教育学科の教員として、きちっと役割を果たすことを目標とした。
また，神戸常盤大学において数理統計データサイエンス教育の基盤を作ることも合わせて目標とした。

主な活動内容

1）教育活動
「まなぶ▸ときわびとⅠ」、「まなぶ▸ときわびとⅡ」のコアメンバーとして、科目の運営、取りまとめを積極的にサポートした。本年度は、卒業研究については、初めてこども教育学科の学生を担当した。

2）研究活動
研究テーマ： Eduinformatics
研究の現状：高等教育に、エビデンスベースドな解析を行うことで、様々な研究をおこなっている。

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照

　学会発表（16回）　論文（14編）　著書（0冊）
2019年11月
IEEE/International Institute of Applied Informatics (IIAI) International Congress on Applied Information Technology (AIT 2019) においてBest Paper Awardを受賞

2019年12月
人工知能学会セマンティックウェブとオントロジー研究会　第2回ナレッジグラフ推論

チャレンジ ベストアイデア賞受賞

3）社会的活動等

International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Steering Committee of 9th lnternational Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2020)

International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Conference Chair of 8th lnternational Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2019)、

IJIRM: International Journal of Institutional Research and Management, The Co-Editor in chief of IJIRM
AED講習回を、講師として行った。
1.17の炊き出しに参加。

今後の課題

来年度は，診療放射線学科への転科がある。新しい学科で，しっかりと自分の役割を果たしたい。また，世界各地で新型コロナウィルスが流行しており，本学においてもどのような対応が必要になるかわからない状況が続いている。万一遠隔授業を行うようになった場合の準備を事前に行い，サポートが必要となったらすぐに対応できるように準備したい。

教員名	柳原　利佳子	所属学科等	こども教育	職名	講師
委嘱委員・職務	教務・就職・臨地実習・学生相談室など，保育者養成コース				
クラス担任	１年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	こころの理解，基礎研究演習Ⅰ，カウンセリングの技法，教育心理学，発達心理学Ⅱ，保育の心理学，教職実践演習（幼稚園・小学校），卒業研究Ⅰ，卒業研究Ⅱ，卒業研究Ⅲ，卒業研究Ⅳ，人間関係論，生涯発達論				
担当科目コマ数	14.27				

本年度の課題

・卒業研究において学生のモチベーションが低下しないよう継続的な指導と支援をする。
・３種類のカリキュラムが進行するという複雑化した中で，履修指導を滞りなく行う。

本年度の目標

・卒業研究の計画的かつ積極的に進める。
・複雑化したカリキュラムの中で，特に再履修者への丁寧な指導をする。

主な活動内容

1）教育活動
・卒業研究の４年生について12月に大きく停滞がみられたので，次年度は意識して進めていくつもりである。
・教務委員として個別対応が必要な学生への履修相談・指導を行った。
・クラス担任として面接・指導などの機会を利用し学生理解に努めた。
・卒業研究ゼミ指導教員として学生及び保護者への連絡・支援を行った。
・学生相談室委員として学生サロンの時間に学生から相談を受けた。
2）研究活動
研究テーマ：更年期女性に期待される多重役割について
研究の現状：成人女性の語り合いの場への参加に留まっており，業績にはつなげていないままである。
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照
　学会発表（0回）　論文（0編）　著書（0冊）
3）社会的活動等
・武庫川女子大学へ出講
・７月：東灘高等学校　高大連携講座　対人援助職のための発達学～人間関係の形成

今後の課題

・新型コロナの影響で懸念される教務関係の学務へ丁寧に取り組む。
・卒業研究Ⅱから卒業研究Ⅲへの滑らかな接続を意識した指導を行う。
・個人研究活動を進める。

教員名	近藤　みづき	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会、FAST等企画運営ユニット、健康管理室				
クラス担任	2年責任者	クラブ顧問	テニス部・ダンス部		
担当科目名	健康スポーツ科学Ⅰ、健康スポーツ科学Ⅱ、健康スポーツ科学Ⅲ、まなぶ▸ときわびとⅠ、まなぶ▸ときわびとⅡ、基礎体育、基礎研究演習Ⅱ、保育実践演習、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	13.37				

本年度の課題

・個人研究活動を進める。
・学務を支障なく進める。
・新カリキュラムにおける新規科目を滞りなく遂行する。

本年度の目標

・研究の成果を発表または論文として投稿する。
・学生委員として行事を滞りなく遂行すると共に学生の健康管理に留意する。
・新カリキュラムの授業内容、方法等を精査し、改善する。

主な活動内容

1）教育活動

新規科目の「基礎体育」では、毎回の授業内容をホワイトボードに記し、学生と授業内容や目的を共有してから始めることを心がけた。さらに、グループワークやプレゼンテーション等を使って振り返ることで、学生の学びを深めることができた。また、必修科目として、欠席が続く等気になる学生に対して早めに声をかけ、状況を把握し、担任と連携を取り対応した。今後も継続していきたい。

2）研究活動

研究テーマ：幼児の動感身体知の発生について、動感促発能力の養成について

研究の現状：現在テーマを設定中

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（ 1 回） 論文（ 3 編） 著書（ 0 冊）

3）社会的活動等

・日本スポーツ運動学会　理事

・神戸常盤大学附属ときわ幼稚園キッズクラブ「マットや跳び箱で遊ぼう！」講師

・神戸常盤大学子育て支援センター「親子のふれあい運動遊び」講師

・神戸常盤大学公開講座（前期）「レッツテニス」講師

・駒ヶ林中学校　救命講習　講師

今後の課題

・継続的に研究を進め、研究と実践を結び付ける

・新カリキュラムにおける新規科目を滞りなく遂行する

教員名	大城　亜水	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、就職委員、臨地実習委員、KITテクニカルアドバイザー（ときわんモトロク）				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、まなぶるⅠ・Ⅱ、情報基礎、情報メディア演習、地域との協働A、家庭支援論、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、保育実践演習、保育・教育研究課題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
担当科目コマ数	15.46				

本年度の課題

前年度の業務を含め、入試委員業務を円滑に遂行する。

本年度の目標

上記課題を完遂

主な活動内容

1）教育活動

・就職活動、進路相談や履歴書添削

・「まなぶる」の授業で反転授業コンテンツ作成

・「淡路市まちづくりプロジェクト」で正課外活動実施

2）研究活動
研究テーマ：近代日本における教化論の形成と展開―労働と生活をつなぐ―
研究の現状：大正期の最低生活水準を中心に文献調査を進めている。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　1　回）　論文（　2　編）　著書（　1　冊）※部分執筆

3）社会的活動等
【講座】
少子化対策―少子化の動向とワーク・ライフ・バランスなどの政策的課題／大城亜水（神戸常盤大学）／大阪労働大学講座（令和元年度）／2019 年 9 月

今後の課題

教育活動や校務に支障がないことを確認しながら、しっかり研究活動、とくに KIT と学生の連携について取り組みたい。

教員名	京極　重智	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員、神戸常盤地域交流センター委員、教職支援センター委員				
クラス担任	２年（教員養成コース）	クラブ顧問	ソフトテニス部、写真部		
担当科目名	特別活動の指導法、基礎研究演習Ⅱ、地域との協働Ｂ、生涯学習論、教育の思想と歴史、道徳教育の理論と実践、道徳教育と特別活動論、まなぶる➤ときわびとⅠ、まなぶる➤ときわびとⅡ、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教科指導法特論Ⅰ、教科指導法特論Ⅱ、教科指導法特論Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、教育実践演習				
担当科目コマ数	16.60				

本年度の課題

本年度は本学着任初年次のため、教育・研究・学務の三つに卒なく取り組むことを課題とした。

本年度の目標

教育に関して、神戸常盤大学の学生の実態に即した授業（授業評価について平均値以上）を目標とした。研究に関して、具体的な目標として学会発表１回、論文１編とした。

主な活動内容

1）教育活動
単独でもつ科目に関しては、多くの科目で授業評価が平均値以上であった。とくに後期では、学生の実態にあわせ、教員採用試験を念頭に置いた授業を展開できた。

2）研究活動
研究テーマ：地域貢献に結びつく教育哲学・思想的研究

研究の現状：本年度は「哲学対話」という新たな研究対象を扱い、地域の人々や附属園の園児とともに実践した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　2　回）　論文（　3　編）　著書（　0　冊） 3）社会的活動等 公開講座（ときわ哲学カフェ）の実施、鈴蘭台高等学校への出張講義
今後の課題
教育に関して、教員採用試験への合格と教師として働くことに直結する授業内容に改善する。また、研究に関して、査読付きの学術誌への投稿を目指す。

教員名	川井　綾	所属学科等	こども教育学科	職名	助手
委嘱委員・職務	臨地実習委員会・広報委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	ハローベビー部		
担当科目名	まなぶる▸ときわびとⅠ・Ⅱ こどもの保健Ⅲ・こどもの食と栄養Ⅰ（助手）				
担当科目コマ数	ー				
本年度の課題					
・新カリキュラムによる実習依頼の基盤をつくる。 ・学生の就職活動に関わる資料の展示や、模擬保育・授業で必要な教材を準備する等、有効的な環境を整備する。 ・学生と実習先または教員との連携がスムーズに運ぶよう情報の整理に努める。 ・親子のふれあいあそびを基に子育て支援に取り組む。					
本年度の目標					
・実習がスムーズに実施されるために、学生・教員・実習先との連絡の往還を大切にする。 ・親子のふれあい遊びの意義について実践方法を多面的にとらえ、子育て中の母親をサポートする遊びの実践に取り組む。					
主な活動内容					
1）教育活動 ・実習依頼計画等、年間の実習依頼の基盤作成。 ・実習先との連携を重要視し、連絡事項の記録、教員・学生への報告を密にとる事に努めた。 ・学生の教材の活用ノートを設置し必要物品を把握・活用しやすい環境整備。 ・保育士養成研究研修会より学生への対応や実習先との連携の重要性を学び、学科で発表共有した。 ・「健康フェスタ」のこどもあそびの広場を学生と共に企画・実施した。					

2）研究活動 研究テーマ：親子のふれあいあそび 研究の現状：赤ちゃん学会での学びを参考にし、歌遊びを含むふれあい遊びを思考中。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 ・KIT/もとろくでの親子ふれあい遊び。健康フェスタでの子供向けあそびの広場。
今後の課題
・実習前後の学生との連絡を円滑に進めていくと共に、実習によって得られる学生の学びに目を向け、充実した実習が経験できるようサポートする。 ・実習先や教員間の連絡を密に取り調整を図る。 ・子どもとのふれあい遊びに焦点を置き、学生と共に活動の場を持てるようにしたい。

4. 短期大学部口腔保健学科　個人年間活動報告書

教員名	吉田 幸恵	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長，口腔保健研究センター長，運営委員会委員，学園一体化推進協議会委員，学長会議委員，合否判定部会委員，短期大学認証評価代表者会議委員，ALO委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生学概論，栄養指導法，学びの基礎，健康科学総論，歯科衛生過程演習，歯科医療と法律・制度，歯科予防処置演習BⅡ，口腔保健衛生学実習Ⅱ，地域口腔保健支援実習Ⅱ，口腔保健特論Ⅰ，口腔保健特論Ⅱ，こどもの歯と健康（E科），健康スポーツ科学Ⅰ（E，N，M科）				
担当科目コマ数	5.5				

本年度の課題

・４年制の歯科衛生士教育について詳細な検討。
・研究業績向上に向けた学科教員の研究体制の構築。

本年度の目標

・他校の４年制歯科衛生士教育における付加価値を調査する。
・研究分野や教育分野による研究グループを編成し，調査等の研究協力を行う。

主な活動内容

1）教育活動

主担当の授業科目において学生の授業評価を前年度より向上させる努力をした結果，「歯科衛生学概論」「栄養指導法」とも学科平均を上回る評価であった。中でも，授業内容と授業方法は高い評価を得たが，事前学習課題を出したにも関わらず，授業以外の学習時間は評価が低かったことから次年度では更なる工夫が必要である。

2）研究活動

学科長として学科教員の研究活動を支援するため研究に共通した内容の調査などは協力して実施する体制を組んだ。

研究テーマ：①健康寿命延伸のための１口量決定因子に関する研究（科研採択テーマ）②高齢者の口腔機能と足趾力との関連について

研究の現状：①データの解析が終了し纏めたものを学会において2題発表した。
②対象者の口腔および身体計測を実施している途中である。

学会発表（　10　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

日本歯科衛生学会幹事，日本歯科衛生学会研究倫理委員会委員長，日本健康体力栄養学会副会長として学会活動に携わった。兵庫県歯科衛生士会2019年度卒後研修必修プログラムアドバンスコースにおいて「キャリア教育」について講演した。

今後の課題

・他校にない 4 年制の歯科衛生士教育課程を組み立てる。
・授業以外の学習時間を確保できる授業の展開を考える。

教員名	原 久美子	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書紀要委員会・副委員長／保健管理センター学生相談室・責任者／臨地実習委員会・委員長／口腔保健研究センター神戸常盤大学短期大学部診療所・委員／				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなびの基礎，歯科保健指導論Ⅰ，歯科保健指導演習Ⅱ，歯科保健指導演習Ⅳ，歯科衛生過程Ⅰ，歯科衛生過程Ⅱ，地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	11.63				

本年度の課題

１．　実験を導入する授業を継続する。
２．　義歯関係の体験型の授業を導入する。

本年度の目標

１．　授業説明のペースを落とし分かりやすい授業をこころがける。
２．　体験や媒体作成等を通して考える力をつける授業を行う。

主な活動内容

1）教育活動

学内：１．昨年度に引き続き，口腔清掃前後での自身の唾液中の細菌数と唾液分泌量（安静時及び刺激時）を測定させた。集計結果を授業内で解説し，口腔清掃の意義の授業に繋げた。自分自身の口腔内の変化を知ることで授業に興味も持たせ，測定機器を使用することで実験的研究に親しみを持たせることができた。また，検査機器の使用時には医療検査学科の卒研生から指導を受け，IPE 教育の一環となった。

２．実験体験授業として，洗口剤の効果について実施した。講義で聞くだけよりも実際に効果を目視できたので，濃度や作用により効果が違う事を実感できていた。

学外：以下の講演活動を行った

1. 第 7 回ヘルスケア健康セミナー
　神戸から発信しよう！『くちビルディング選手権』でオーラルフレイル予防」
　対象：神戸市健康サポーター
2. 全国歯科衛生士教育協議会　2019 年度講習会Ⅳ
　「研究指導法」
　対象：歯科衛生士教員
3. 神戸常盤大学歯科衛生士リカレント研修会
　「口腔乾燥対策　唾液の力を知ろう」
　対象：神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科リカレント生

4.三菱研究所　社員研修会
「2019 年度 MHP21「歯科教室」」
対象：三菱電機(株)先端技術総合研究所社員
5.医療法人社団更生会草津病院講習会
「口腔ケアの基礎知識とブラッシング技術」
対象：病院スタッフ（医師・看護師・管理栄養士・理学療法士）

2）研究活動

研究テーマ：　１．唾液分泌に関する研究
２．口腔機能に関する研究
３．授業の方法に関する研究
４．口腔清掃補助用具の使用に関する研究

研究の現状：

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（筆頭：2回　共同：3回）　論文（共著：1編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

(1)以下の学会・研究会委員を拝命し，学会・研究会の企画や実施に携わった。
・日本歯科衛生学会企画委員会副委員長（社団法人日本歯科衛生士会）・日本口腔ケア学会評議員・口腔ケア研究会ひろしま副代表・「歯科衛生士用語辞典」編集委員（医歯薬出版株式会社）・日本健康体力栄養学会評議員・全国歯科衛生士教育協議会教育問題検討会小委員会委員

今後の課題

今年度で退職につき記載なし

教員名	八木 孝和	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生委員会副委員長、健康管理室委員、ＫＴＵ委員、口腔センター委員				
クラス担任	1年生Ａクラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	人体の構造、人体の機能、口腔の機能、臨床歯科Ⅲ（麻酔学、放射線学）、臨床歯科Ⅴ（矯正歯科学）生化学・栄養学、器材学、薬理学、健康科学総論、学びの基礎、口腔保健衛生学実習Ⅰ、口腔保健特論、健康スポーツ科学Ⅰ				
担当科目コマ数	8.4				
本年度の課題					
本年度着任のため課題設定なし					
本年度の目標					
本年度着任のため課題設定なし					
主な活動内容					

1）教育活動
リカレント授業：歯科矯正を担当、高大連携講義：鈴蘭台高校、柏原高校、神戸常盤女子高向け体験授業を行った。また、学生への講義、実習のみならず、学生への個別対応に積極的に対応した。
2）研究活動
研究テーマ：
①脳腸ペプチドによるストレス起因性顎口腔機能異常の改善に対する効果の検証(基盤研究C）
②顎顔面形態の差が心理的背景に及ぼす影響に関する検証（テーマ別研究）
研究の現状：講義準備と学生対応に忙殺され研究にほとんど時間を割けなかった
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　3　回）　論文（　1　編）　著書（　0　冊）
3）社会的活動等
歯科健診、神戸市救急インストラクターとして口腔保健学科3年生に対して指導
常盤健康フェスタにて歯科健診指導
日本矯正歯科学会代議員、日本顎口腔機能学会評議員、全国大学衛生士教育協議会委員
査読　９誌（紀要１、海外雑誌６、国内英文誌２）

今後の課題

今年度は本学赴任初年度であり、9 つの主要な学科講義など計 13 科目を担当し、リカレント講義や高大接続出張講義等の準備に、多くの時間を割く必要があった。また、現在の科研（基盤研究）が当大学で整備されていない動物の行動実験であることから、ほとんど進めることができなかった。一方、テーマ別研究として新たに活動を開始した Seed としての位置づけが強い研究活動は、疫学方面の研究であり、何とか sampling を開始することができた。その結果、2019 年の成果は、本学着任する前に行ってきたもののみとなった。また、1 年生の担任となり、大学生活になれない学生への対応などで、オフィシャルタイムは定められているものの、それ以外の時間でも学生が訪れてくるため、対応に苦慮した。さらに、学生への授業評価や口頭での確認から学生の理解度と講義レベルに、自身が当初予定していたよりも乖離を実感したことから、来年度は、もう少し、研究活動に時間を割きつつ、より学生の理解を深められる授業を心掛けたいと考えている。

教員名	柳田　学	所属学科等	口腔保健	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会副委員長、歯科診療所副所長、ときわ教育推進機構・委員、短期大学部認証評価準備委員会・委員、入学試験の出題・生物・委員				
クラス担任	3年生主担任	クラブ顧問			
担当科目名	口腔衛生学、病原微生物学・免疫学、臨床歯科I、臨床歯科II、臨床歯科III、歯科医療と法律・制度、海外研修、健康科学総論、学びの基礎、歯科医療と経済				
担当科目コマ数	9.07				

本年度の課題
学生の研究室訪問への対応を昨年度よりは厳格化した。本年度は面談可能日時を学生に提示する。（学校から学生に提示されているオフィシャルタイムは機能していない）
本年度の目標
講義内容に歯科臨床の映像を多く取り入れて、視覚的に理解が進むように心がける。
主な活動内容
1）教育活動 学生への講義、実習のみならず、学生への個別対応は例年通り積極的に対応した。 2）研究活動 研究テーマ：口腔保健、歯肉線維芽細胞の機能解析 研究の現状：担当科目が増えたことによる講義準備、学生対応、委員会（特に入試委員会）に忙殺され研究にほとんど時間を割けなかった。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　３回）　論文（　　２編）　著書（　　０冊） 3）社会的活動等 日本歯周病学会評議員、近畿中国四国口腔衛生学会・幹事 日本歯周病学会歯周病専門医、日本歯科保存学会保存治療指導医、日本再生医療学会再生医療認定医、産業歯科医
今後の課題
今年度は歯科医師教員の定年に伴い、昨年度より担当科目が増加したことで、学科講義の準備に時間を割く時間も増加した。来年度は、現在担当している科目講義のブラッシュアップに時間を割きたい。また、現在所属している委員会は、自身の研究系、臨床医療系のキャリアを全く活かすことができないため、可能であれば研究系の委員会活動を行いたい。

教員名	福田　昌代	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員副委員長、国家試験対策委員会委員長、FAST				
クラス担任	1年生主担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導論Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、口腔保健特論Ⅱ				
担当科目コマ数	12.17				
本年度の課題					
・現課題の研究の継続と、学会発表 ・国家試験合格率 100%を達成させる ・自己研鑽					
本年度の目標					

・国家試験合格率 100%
・新たな研究テーマの検討
・現在の研究の成果発表

主な活動内容

1）教育活動
・国家試験対策委員長として現役生と過年度生全員が国家試験合格できるように、学生に学習支援を行った。模擬試験、特論のスケジュールの管理ならびに業者の補講などの日程について、学習進度に応じた日程を調整した。成績管理を行い、成績不良者をピックアップし、国家試験委員で個別学習支援を実施した。その成果として、昨年不合格の学生も含めて100%合格することができた。
・担当科目が変わり、新しい科目を受け持つことになったが、その授業で使用する物として、学生が予習、授業、復習と学習を進めることができるような資料を作成した。
・今まで実施していなかった、1、2年生の合同の実習を行った。今後も、2，3年と継続していく予定である。
2）研究活動
研究テーマ： ①産学官が連携したオーラルフレイル予防の効果の検証：身体機能や栄養状態への影響（足趾把持力と口腔機能の関連性）
②地域在住自立高齢者の口腔機能と口腔関連QOLの関連性-台湾の調査-
③バリ島在留邦人に対する患者支援システムの実態
④1回嚥下量と口腔機能ならびに食行動との関連性
研究の現状：上記①については科研費基盤研究C採択された。学会発表や調査を行う。
②については、論文投稿中である。
③については、紀要に投稿済み。
④については、論文投稿を目指す。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 10 回） 論文（筆頭 3 編） 著書（ 1 冊）
3）社会的活動等
兵庫県立明石南高等学校 高大連携授業担当
神戸常盤健康フェスタ担当

今後の課題

・国家試験合格 100%を目指す。
・他学年との合同実習を充実させる。
・科研費採択された研究を計画的に遂行する。
・新たな教育研究課題を見出し、研究をスタートさせる。

教員名	上原 弘美	所属学科等	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	ＳＤ委員・就職委員会委員長・臨地実習委員会委員 神戸常盤大学短期大学部歯科診療所委員				

クラス担任	２年主担任	クラブ顧問	なし
担当科目名	歯科診療補助論、歯科診療補助演習Ⅱ、歯科診療補助演習Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、医療安全、臨床検査学、口腔保健特論Ⅱ、診療補助実習Ⅱ、総合歯科実習、地域歯科保健実習Ⅱ		
担当科目コマ数	13.37		

本年度の課題

１）学生のモチベーションを高める授業展開の検討
２）研究のための時間を確保する
３）教員としての活動と社会的活動とのバランスのとれた活動を心がけ、社会的活動での経験や情報を学生教育へ反映する

本年度の目標

１）・グループワークや発表を取り入れた能動的参加ができる授業をおこなう。
・事前課題を課すことで学生の授業の理解度を深め、学生が進んで授業に参加するよう工夫する。
・授業後のレポートをできるかぎり早くに学生にフィードバックする。
２）研究日を有効に活用できるように、教育に関わる業務を整理する
３）社会的活動では地域特性や歯科衛生士の職能に関する最新の情報を得ることができるので、授業内容の見直しを図ることに役立てる

主な活動内容

１）教育活動
授業の事前・事後学習を自主的におこなえるよう、科目ごとのノートを作成させ、授業終了後に提出させた。学生の取り組み状況には差がみられたが、積極的に学習した学生は授業への前向きな参加態度が見られた。プレテスト・ポストテストを実施して学生個々の理解度を測り、理解が不十分な学生が多い場合、次回の授業内容を見直し、再度解説するように心がけた。臨地実習科目「診療補助実習Ⅱ」では、実習中に自己の課題を見つけ、実習後に課題レポートを作成・提出させた。
２）研究活動
研究テーマ：全身疾患と口腔衛生管理
研究の現状：情報・資料の収集中
本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照
学会発表（２回）　論文（０編）　著書（０冊）
３）社会的活動等
【役員・委員等】
・歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会　企画運営委員（公益社団法人日本歯科衛生士会）
（以下令和１年６月まで）
・公益社団法人兵庫県歯科衛生士会会長
・歯科口腔保健推進検討会委員・歯科口腔保健推進懇話会委員（神戸市）
・健康寿命延伸のための「介護予防」専門部会委員（神戸市）

・8020運動推進委員(兵庫県)
【講演】
・オーラルフレイル研修会　2020.2.11
【ワークショップ】
・日本歯科衛生学会 第14回学術大会　ワークショップ
「新人歯科衛生士の成長支援Part４　新人歯科衛生等の育成プロセスシートの活用を目指して
【非常勤講師】
・兵庫県立総合衛生学院看護学科全日制・定時制「老年援助論演習」
・兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科「口腔保健管理Ⅶ」
・高大連携授業　明石南高校
・阪神シニアカレッジ

今後の課題

・学生の学習意欲を高める授業方法の検討
・学会や研修会などに積極的に参加し、研究活動を活発に行う

教員名	高橋 由希子	所属学科等	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員・臨地実習委員 個人情報保護委員・危機管理（災害）委員				
クラス担任	口腔保健学科2年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置論A・B、地域歯科保健実習Ⅰ 災害援助と救急救命、災害時の歯科衛生士の働き 歯科予防処置演習BⅠ・Ⅱ、歯科予防処置演習AⅠ・Ⅱ				
担当科目コマ数	17.13				

本年度の課題

教育：学生のレベルや学生数に合わせた講義・実習

本年度の目標

教育：学生の意欲を向上させ、目的意識を明確にする授業展開を行う
研究：論文投稿を行う
学内の活動：新規の委員会業務を習得し、本学に貢献する

主な活動内容

1）教育活動
歯科予防処置に関する講義実習を問題解決型で行い、学生の能動的学習を促した。
災害に関する講義演習ではシナリオベースでグループワークやプレゼンテーションを行うことで、災害を経験していない学生に自助・共助について理解できるよう心掛けた。
2）研究活動
研究テーマと現状

①歯科衛生士教育プログラムの国際比較
文献によるアジア諸国の口腔衛生専門職の役割の調査分析は終了、今後は現地調査を行う
②外国にルーツをもつ親子への口腔保健からの支援
神戸市および長田区のフィールド調査中
※本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　2　回）　論文（　1　編）　著書（　0　冊）
3）社会的活動等
多文化共生に関連する地域住民への支援
日本歯周病学会　評議員

今後の課題

歯科衛生士の仕事の楽しさを伝えるため、教員が臨床業務を行う姿を学生に提示する

教員名	御代出 三津子	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員、学生相談室委員、臨地実習委員、口腔保健研究センター委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	総合歯科実習、地域口腔保健支援実習Ⅰ、こどもの歯と健康、学びの基礎				
担当科目コマ数	14.03				

本年度の課題

・歯科診療所を利用する口腔保健学科以外の学生を増やす
・保護者参加型の実習を学生たちに効果的に学習できるように

本年度の目標

・新入生の歯科健診時に今まで以上に強く歯科診療所の利用を勧める

主な活動内容

1）教育活動
歯科診療所で口腔保健学科３年生時に実施している保護者参加型実習はどうしても保護者の緊張感が伝わり、学生本人もかなりの緊張感を持ってしまうので、その部分が出ないように実習が進むことを気遣いながら指導している。
2）研究活動
研究テーマ：歯科衛生士法の考察
研究の現状：高齢化社会になり、口から食事ができることの重要性は理解されてきている
多職種とも連携して、幅広く業務できる法整備を考えたい。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）
2）社会的活動等

子育て支援施設「KIT」歯の相談室（11回開催） 2019　4/17,5/16,6/13,7/11,8/8,9/12,10/10,11/7,12/12　2020　1/9,2/13 はすいけ介護予防教室（蓮池小学校）2019　5/21,7/23,12/10 「むし歯予防とフッ素について」　　2019　4/22 ときわ幼稚園 長田区区民まちづくり会議　2019　7/10,　2/28 長田区子どものむし歯予防のための検討会議　　2019　9/4, 2/5 「歯と口の健康」長田区民対象　細田福祉ｾﾝﾀｰ　2019　7/16 「いきいき生活のためのお口の健康」ﾌｫﾚｽﾄ垂水入所者対象　2019　6/19
今後の課題
歯科診療所で実施している保護者参加型実習で保護者の方々からご意見がよく出るようになったので、学生たちはその言葉に対して真剣に取り組んでいる。より知識と技術が上達できるように指導を考えていく

教員名	澤田 美佐緒	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、合否判定部会、臨地実習副委員長				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、学びの基礎 オーラルリハビリテーション、オーラルリハビリテーション演習、 診療補助実習Ⅰ、口腔保健衛生学実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	14.53				
本年度の課題					
教育活動：学生が学ぶ楽しさを実感し能動的な学習へと向かう方法を検討する 研究活動：多職種連携するための卒前教育について検討を継続する					
本年度の目標					
教育活動：学生が対象の状況や診療の手順を具体的に想像できるようにする 研究活動：演習直後の調査に加え、合同演習実施後の４年生にも質問紙調査を実施する					
主な活動内容					
1）教育活動 昨年の授業で今の学生は歯科治療経験が少なく、局所の動画を観ても全体像が分からない状況があったことから、個々の診療手順の前に一連の治療過程を説明した。１年次に学んだ基本的な治療を思い出し、授業内での理解が進むように事前課題を課したが、学習状況の個人差が大きく感じた。理解できないと興味を持てず、能動的な学習につながらない。授業後レポートに説明を加え、振り返りを利用して理解につなげたい。 2）研究活動 研究テーマ：多職種と連携して口腔健康管理を実践する人材の育成 研究の現状：経年的に看護学科との合同演習による学習効果を調査し、教育効果を検証する。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					

学会発表（　　1回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 ①太成学院歯科衛生専門学校　非常勤講師　「高齢者歯科学」 ②「まちの保健室」ボランティア研修会　講師　2019年5月 ③大阪歯科大学ポストグラデュエートコース　講師　2019年7月 ④兵庫県看護協会研修会　講師　2019年11月 ⑤鳥取県歯科医師会　訪問歯科衛生士養成研修会　講師　2020年2月 ⑥宝塚市地域包括ケアシステム研究会～3つの若葉を育てる会～に参加
今後の課題
教育活動：学生自身が自分の学習状況を把握できるようにする 研究活動：専門職連携教育の充実をはかる

教員名	破魔 幸枝	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会委員,合否判定部会委員,臨地実習委員会委員				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置演習BⅠ（歯周病）,歯科予防処置演習BⅡ（歯周病）,歯科予防処置演習AⅠ（う蝕）,歯科予防処置演習AⅡ（う蝕）,口腔保健衛生学実習Ⅰ,口腔保健衛生学実習Ⅱ,口腔保健特論Ⅱ,学びの基礎				
担当科目コマ数	15.7				

本年度の課題
・教授について,学生自らが学修に対して意識改革をおこすレクチャーは引き続きおこなう.さらに,歯科衛生士職について,関心興味を強める効果のある授業に改善していきたい. ・研究について,研究テーマについての見直しは行ったが,社会貢献度で考えると効果が薄い.研究調査を優先ではなく,研究の目的を明確にし,新規の調査に取り掛かる.研究デザインの再構築を開始する.
本年度の目標
・教授について,学生の意識に刺激を与える工夫をし,講義は知識の修得のみならず職業理解にも繋げ,演習においては技術の修得のみならず国家試験対策に直結の授業とする. ・研究において,研究テーマは研究目的の社会貢献度（大学への貢献度）を考え,研究目的をしぼり,研究計画を実施可能な状態で具体的に計画する.
主な活動内容
1）教育活動 ・教授について,学生の意欲を活性化するため,教員の支援をもとに学生自身が選択できる場面を多く作った.主に演習では,グループワークや自習の時間を活用して,発表と評価をおこなうように設定した. 2）研究活動 研究テーマ：①教育心理学（自己肯定感）,②社会系歯学（口唇閉鎖不全、口腔機能向上

），③基礎看護学分野（代替療法），④臨床心理学（親子の愛着） 研究の現状：①②③学会発表・論文投稿あり，④発表なし，研究続行 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　　６回）　論文（　　２編）　著書（　　0冊） 3）社会的活動等 　兵庫県歯科衛生士会　広報委員
今後の課題 ・教授について，学修意欲の継続や定着には学生自身の本質に働きかける必要性があり，レクチャーではなく“仕掛け”が必須なのではないかと考える． ・研究について，新たな研究テーマについての見直しを行っている．研究デザインの再構築を進め，研究計画および研究調査に取り掛かる．

教員名	中村 美紀	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、地域交流センター、臨地実習委員、国試対策委員				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習Ⅰ、歯科診療補助演習Ⅱ、歯科診療補助演習Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、オーラルリハビリテーション、学びの基礎				
担当科目コマ数	14.43				

本年度の課題
昨年度の課題は、診療補助演習Ⅰの授業評価において授業方法の評価が学科内平均より下回っていたことであったが、本年度の評価は学科内平均を上回るものであった。 　研究においては、研究に費やす時間の確保を課題として挙げていたが、今年度も確保は困難であった。
本年度の目標
・授業評価の維持 ・研究時間の確保（研究日の有効活用）
主な活動内容
1）教育活動 　本学以外での活動なし 2）研究活動 研究テーマ：　小児がん患者における周術期口腔機能管理 　　口腔機能発達不全症に関する調査 研究の現状：（上段）論文執筆中 　　（下段）データ収集中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　1回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等

平成31年4月：口腔ケア学会　シンポジスト 令和1年12月：兵庫県歯科衛生会研修会　講師
今後の課題
次年度より歯科保健指導の担当となった。初めての担当科目であるが、診療補助と同様に、学生に合わせた授業展開の確立を目指したい。研究においては研究時間を確保し、研究を進捗させることが課題として挙げられる。社会活動においては、研究の発展のためにも新たな社会活動の場を拡げることが課題として挙げられる。

教員名	東 麻夢可	所属学科	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員会委員、入試委員会委員、合否判定部会委員				
クラス担任	３年Ｂクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科診療補助演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、診療補助実習Ⅰ、診療補助実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	15.63				
本年度の課題					
・学生の主体的な活動、学修の支援 ・学生が考える力を育むための授業方法の検討	・研究活動の継続 ・学位取得に向けての活動				
本年度の目標					
・講義～演習科目間の流れに沿った内容改善 ・授業前後の学修やレポート内容の改善	・研究成果の発表と論文作成				
主な活動内容					
1)教育活動 講義科目と演習科目の関連による学修内容の充実化、学生の理解度の向上を図るため、担当者と情報共有を行い、授業内容やレポート内容の改善を行うことで、歯科保健指導関連科目全体としての流れを構築した。 2)研究活動 研究テーマ：①歯間ブラシの定着率に影響を与える因子に関する研究 ②歯科関連の調査データをもとにした大規模疫学調査研究 ③大学生を対象とした歯科疾患スクリーニングのための質問票の開発 ④呼吸機能の訓練の有効性に関する研究 気管支喘息の既往がある者の場合 研究の現状：①平成30年度テーマ別研究費獲得、第8回神戸常盤学術フォーラム、第9・10回日本歯科衛生教育学会学術大会で発表、日本老年歯科医学会第30回学術大会で発表予定 ②倫理委員会申請中 ③日本歯科衛生学会第15回学術大会で発表予定 ④日本私立学校振興・共済事業団 若手研究者奨励金獲得					

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　9　回）　論文（　2　編）　著書（　　冊） 3)社会的活動等 常盤女子高等学校サマーオープンスクール公開講座・体験授業、高大連携講座（神戸鈴蘭台高等学校）、KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ
今後の課題
・学生が主体的に学修し、考える力を育むための授業の検討 ・学位取得に向けての活動　　・研究活動の継続

教員名	伴仲 謙欣	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学術推進課、広報委員、遺伝子組換え安全委員、KTU 研究開発推進センター員、ときわ教育推進機構委員、研究倫理委員、ＩＲ推進プロジェクト委員、ライフサイエンス研究センター委員、国際交流センター委員、利益相反マネジメント委員、研究ブランディングＡチーム				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	『現代社会学』、『教育社会学』、『地域との協働Ａ』、『まなぶ▸ときわびとＩⅡ（キャリア基礎）』、『学びの基礎』、『安全学』、『教育と人間』				
担当科目コマ数	6.33				

本年度の課題
①授業での ICT や e-Portfolio の活用。②成績評価法の改善。③新たな研究テーマの開発。
本年度の目標
・大人数講義に対応した教材や成績評価法の開発を行う。 ・現在検討中の研究テーマの中から新たな研究テーマに着手する。
主な活動内容
1）教育活動 ・担当科目については、ほとんどの科目は昨年度が初回であったため、その経験を踏まえて今年度は科目毎の振り返りを行い、授業方法を「改善」するものと「再開発」するものに分けて取り組んだ。 ・第46回「教育サロンin 関西」で講演を行った。於：本学。 2）研究活動 研究テーマ：【教育効果の可視化】【専門職養成大学における（初年次教育を含む）教養教育のあり方】 研究の現状：取得可能な授業データを元にした教育効果の検証。科研費の申請。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　・学会発表（ 1回：ポスター ）　論文（ 1 編：筆頭）　著書（　0　冊） 3）社会的活動等

・2020年3月7日の公開講座を担当予定であったが、コロナウイルスの流行により講座が中止となった。 ・防災教育学会発起人会に参与した。
今後の課題
教員／職員の兼務という視座から、教学マネジメントや教学 IR 上の課題である「学修成果の可視化」・「教養教育（基盤教育）の開発」というテーマに取り組みたい。

教員名	小林 容子	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国際交流委員会、国試委員会、リカレント				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処理演習AⅠ，AⅡ、　歯科予防処置演習BⅠ，BⅡ				
担当科目コマ数	13.55				

本年度の課題
大学教員として、大学の役割を理解し学生が円滑に学習を進められるようにサポートする。授業内容を科目担当の先生方と協力し、学生の理解を深められるように充実させていく。また、研究者としての自覚を持ち研究を進められるようにする。
本年度の目標
授業の組み立てを理解し、学生に分かりやすく伝える方法や主体的に考えられる方法について考える。研究助成金の申請を最低２つは行う。
主な活動内容
1）教育活動 歯科予防処置演習では、学生の知識と技術の向上のため、できる限り学生の近くで声をかけながら個別の対応ができるようにした。 2）研究活動 研究テーマ：　口腔機能発達不全症 研究の現状：TOKIWA健康フェスタでのデータを基に、学会にてポスター発表 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 第27回日本健康体力栄養学会大会　ポスター発表 学会発表（　　1　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 ときわ健康キャラバンと題し、看護科の先生方と共に在日外国人に対する保健指導を行った。また、学生ボランティアを募り、学生の視点を広げられるように努めた。
今後の課題
昨年は、大学組織や学生のカリキュラムの流れをつかむことに必死で、研究が殆どできなかったため、本年度は、自分の興味のある障害者歯科に対する研究を進めていきたい。また、ときわ健康キャラバンでの活動の充実と、活動結果を報告できるように実践しながら改善点を見つけていきたい。さらに、昨年度、数人の海外に興味がある学生がいることが分かったため、積極的にときわ健康キャラバンの活動への参加を呼びかけていき、

国際交流の橋渡しとなれるようにしていきたいと考える。

教員名	横山 麻衣	所属学科等	口腔保健学科	職名	助手
委嘱委員・職務	学生委員会、国家試験対策委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	学びの基礎、キャリア基礎/まなぶるⅠ、歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、災害時の歯科衛生士の働き、臨地実習（診療補助実習Ⅰ・Ⅱ、総合歯科実習、地域口腔保健支援実習Ⅰ）				
担当科目コマ数					
本年度の課題					
・研究テーマを選定し、研究に費やす時間を確保する必要がある ・最低でも年２回は学会発表を行う					
本年度の目標					
・研究テーマを選定し、研究に費やす時間を確保する必要がある ・最低でも年２回は学会発表を行う					
主な活動内容					
1）教育活動 助手として、学内実習を主に担当した。 2）研究活動 研究テーマ： 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 共著 1 編） 著書（ 冊） 3）社会的活動等					
今後の課題					
退職のため記入すべきことなし					

5. 短期大学部　看護学科通信制課程　個人年間活動報告書

教員名	金川 治美	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	通信教育委員　自己点検評価委員（副委員長） 臨地実習委員　短大認証評価準備委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、成人援助論、成人看護学演習、成人看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数　180時間				

本年度の課題

- ルーブリック評価表を活用し、学生の最終到達度を向上させる。
- 看護師２年生課程（通信制）における教育の在り方では「技術経験と判断力」の経時的変化を調査し、教育内容に還元する。

本年度の目標

- 成人看護学実習の評価にルーブリック評価の実施と評価による最終到達度の向上
- 「技術経験と判断力」と就業経験の差の関係の明確と教育内容の改善。

主な活動内容

1）教育活動

授業評価では、総合評価4.5で昨年度とほぼ同じであった。授業内容の評価が最も高く、4.3 だった。学生自身の評価が最も低く4.2 だった。

進行速度にゆとりを持たせ、内容と量に関してはかなり精選し整理したが、学生の評価を見ると今年度は、東京会場に関しては、評価は本学よりも高かったが、金沢会場では他の会場よりも低かった。特に1～2 名の学生が授業速度についてこられず評価が低くなっている。学生間の差については、授業の工夫だけではなかなか改善できないと感じる。「学生自身」についても、神戸会場と東京会場で差はないが、金沢会場が明らかに低い。自由記述では、ごくわずかの学生が進行速度やレジュメやスクリーンの見えやすさに関して改善を望んでいるが大半の学生は高評価であり、理解に時間がかかる学生への対応に課題があるということではないかと考えられる。

実習スクーリングではルーブリック評価表を用いて評価を行った。学生自身が何を目指してスクーリングに参加するのかがイメージしやすかったためモチベーションが上がったのではないかと評価する。しかし評価表の表現が学生に理解しにくい内容であったという反省点があり次年度改善していきたい。

2）研究活動

研究テーマ：

１．看護師2年生課程（通信制）における教育の在り方

２．継続看護システムの構築

研究の現状：看護師2年生課程（通信制）入学要件短縮（就業年限10年から7年）に伴う技術教育の在り方を検討し学会発表した。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　1回）　論文（　　0編）　著書（　　1冊） 3）社会的活動等 准看護師交流会・進学に向けての研修（滋賀県看護協会）講師
今後の課題
・　ルーブリック評価表の見直しと活用方法の工夫 ・　看護師２年生課程（通信制）における教育の在り方で「技術経験と判断力」の経時的変化を教育内容に還元する。（継続）

教員名	中野 順子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	通信教育委員、国際交流センター委員、自己点検評価委員、 臨地実習委員会（通信）委員長、短大認証評価準備委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護教育指導技術、看護管理、看護マネジメント演習				
担当科目コマ数	授業時間数　210時間				
本年度の課題					
・冊子でまとめた報告書を論文投稿し、科研費申請に早期よりチャレンジする ・今年度取り入れたルーブリック評価表を活用し、学生の学習到達度を向上させる。					
本年度の目標					
・論文への投稿・科研費申請のいずれかに挑戦する。 ・ルーブリック評価表を活用することにより学生の学習到達度を図り、学習意欲を促進することが出来る。					
主な活動内容					
1)教育活動 ・昨年度冊子にまとめた訪問看護師のヒヤリ・ハット体験の実態についての論文投稿又は科研費への挑戦は出来なかったが、自由記述による看取りについて日本在宅ケア学会で発表を行った。 ・ルーブリック評価表の活用については課程内FDで内容や到達度、活用について発表し自己の活用方法の改善点を見出した。学生個々の到達度の評価には及ばず、学生が理解しやすい表現方法の改善を図った。学習意欲につなげるツールとして使用を試みた ・ネパールより助産師・看護師の2名の研修生の受け入れに関わり、2病院への見学依頼と調整、同行を実施した。帰国後のメールでの交信をし、交流の継続を図った。 2)研究活動 研究テーマ：訪問看護師のヒヤリ・ハット体験の記述から考察した看取りの実態と今後の課題 研究の現状：上記のテーマで第24回日本在宅ケア学会（仙台）において示説発表を実施 今後は在宅における看取りに焦点を当てた研究に取り組む。 第25回日本在宅ケア学会（高知）に共同研究者として投稿し受理された。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					

学会発表（　1　　回）　論文（　0　　編）　著書（　0　冊） 3)社会的活動等　・特になし
今後の課題
・研究成果をまとめ、論文投稿または雑誌投稿を試みる。 ・ルーブリック評価について学生の学習意欲を引き出すツールとして使用可能な表現と活用方法を確立する。

教員名	丸岡 洋子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員会委員、CCN臨地実習委員会副委員長　通信教育委員会				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	看護学概論、看護過程、看護過程演習、基礎看護学演習、基礎看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間　180時間				
本年度の課題					
①　学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を計画的に進める。 ②　担当科目間のつながりを考慮し、学生が理解でき意欲的に学習できるよう、教授方法を工夫する。					
本年度の目標					
１．臨地実習委員会副委員長、教務担当としての職責を果たす。 ２．学生が自身の成長を実感できる授業方法、教材の検討					
主な活動内容					
1）教育活動 目標１：①臨地実習委員会副委員長：委員会業務の整理と計画的実施に向けてのプログラム作成、感染症検査、健康診断等の書式の検討と手引きを作製した。これらについては次年度活用し評価する。委員長を補佐し、臨地実習関連業務を円滑に進めることが出来るよう連絡・調整を密にし、問題の早期解決に当たった。 ②　教務担当：本年度より副担当が配置され、連携を取りながら学生の学習相談、学習進捗状況を踏まえた学習指導、臨地実習の履修や卒業に向けての学習指導、非常勤講師との連絡調整等を行ってきた。方向性や業務の確認、作業等、昨年度に比較し円滑に進めることが出来た。昨年度の課題であった学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を計画的に進めるについては、チューターによる学習支援をさらに進めるため、共通の係わりの年間計画を立案し、さらにチューター個々の裁量による指導を加味することで強化を図ることとした。これにより学生個々の学習状況を踏まえた学習サポートの実施を目標とした。さらに学習の進度を効果的進めるために、事務課と調整の上、次年度のレポート提出期間、テキスト修了試験の時期を検討し、計画を変更することに決定した。 目標２：『看護過程』スクーリングにおいては、昨年同様、准看護師の経験から看護の現象がイメージできるという強みを活用し、事例を用い看護実践とリンクさせながら展開した					

。昨年度の課題であった、基礎看護学実習に学びを繋げていくという点では、教材をより理解しやすいように、また実習スクーリングでも活用できるよう内容を充実させた。学生の評価は、昨年同様、看護過程への苦手意識の緩和や、対象の個別性を踏まえた援助を考えることの理解の深まり、面白さを実感したという反応を得ることができた。

『基礎看護学実習』スクーリングでは、ワークシートを活用し日常生活援助技術を展開することで、科学的根拠と個別性を踏まえた援助の必要性、方法を導き出し実践することが認識できるよう進めた。実務経験を持つ学生の評価は、個別性を踏まえた根拠を考えるとはどういうことなのかが理解でき、常に目的を明確にしたケアとその評価の重要性を認識し、明日からの実践に反映させていきたいという反応が多く聞かれた。

2）研究活動

研究テーマ：通信制課程学生の日常生活援助における科学的根拠と個別性の理解の変化

研究の現状：2年間の学生の学習効果を分析中

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

・兵庫県看護協会 教育企画委員

・関西広域連合准看護師試験委員

・兵庫県保健師助産師看護師実習指導者講習会（一般分野）・（特別分野）　講師

教育課程（12 時間・3 時間）

・丹波市立看護専門学校 非常勤講師　看護学概論（看護倫理 6 時間）

今後の課題

① 学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を計画的に進める。
特に新入生への個別学習指導を教員全員がチューターとなり学習への動機づけができるようサポートする。

② 担当科目間のつながりを考慮し、さらに准看護師としての体験を意味づけ、学生が理解でき意欲的に学習できるよう、教授方法を工夫する。

教員名	山岡 紀子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会CCN委員長、臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論、小児援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数： 180時間				

本年度の課題

1. 引き続き学習進捗が芳しくない学生の個別指導を充実させる。
2. データ数を増やし、整理後に統計解析を実施する。

本年度の目標

1. 学生が 1 つでも多くレポートを提出できるように支援する。
2. データ解析を実施し、結果の比較・検討を進める。

主な活動内容
目標1.　（教育活動） テキスト科目：小児援助論および小児看護学演習のレポート添削指導および事後指導 ①概論および実習スクーリング時に、レポート作成及び修了試験のポイントを説明。 ②小児援助論レポートを1度も提出していない学生に、文書によるフォローを実施。 スクーリング科目：小児看護学概論（春期および秋期、3会場にて4回） 小児看護学実習（実習スクーリング3日間×4回） ③春期概論Sは、授業開始後まず新入生の質問や不安に答えることからスタート。 ④実習Sでは引き続き続き個別指導を強化し、学生の特徴に適した指導方法を実施。 国家試験対策：国試対策オリ、学習説明会、模試、講座、学習相談会、電話相談等 ⇒授業評価は今年度も全カテゴリーにおいて学科平均を上回り、①～④のとおり今年度実行可能な取り組みは実施できたため、目標はほぼ達成できたと考える。 目標2.（研究活動） 研究テーマ：極および超低出生体重児の18か月頃の行動と幼児期後期の発達特徴との関連の検討[平成30～32年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究代表者] 研究の現状：データ取集・整理・解釈 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（2回：国内1・国際1、どちらも筆頭）　論文（0編）　著書（0冊） ⇒課程内の事務仕事に追われ、思うようにデータ収集ができず、十分な統計解析に必要なデータ数を得られなかったため、今年度の目標はあまり達成できなかった。 社会的活動等 神戸市総合児童センター・神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター「極低出生体重児とその家族のための子育て支援教室 YOYOクラブ」（今年度8回参加）
今後の課題
教育：一人でも多くの学生が実習を履修できるように指導を進める。 研究：得られた結果を比較・検討し、論文作成に着手する。

教員名	小坂 素子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	通信教育委員会、臨地実習委員会、国試対策委員 ハラスメント防止対策委員会副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論、母性援助論、母性看護学演習、母性看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間　210時間				
本年度の課題					
１．授業計画を見直し、効果的な授業が実践できる。 ２．研究を行うための自己研鑽を行う。					
本年度の目標					

１．　授業計画を見直し他の教員のアドバイスも活かし効果的な授業が実践出来る。 ２．　研究のテーマが遂行出来るよう、データーの整理を行う。
主な活動内容
1）教育活動： ① スクーリング科目では、他の教員の授業の聴講を行い、「間の取り方」、「学習内容の意義と目的の明確化」「学生の思考力を育む」点を活かすことで学生の評価が徐々に上がった。 ルーブリックで到達目標が明確になる様にしたが、目標の曖昧さがあった。 ② レポート添削指導：コメントの工夫として、学生が分かりやすい内容と表現を行うことで、「学習がしやすかった」、「ポイントが分かり国試対策にもなった」と学生は評価していた。 2)研究活動 研究テーマ：短期大学看護学科２年課程（通信制）における母性看護学臨地実習 グループワークでの学生の気づきと学び　－記録内容から― 研究の現状：学生の気づきと学びを記録から整理を行っている途中である。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊） 3)社会的活動等 公益社団法人　日本助産師会：会員として、地域の歴史の編纂に関わっている。 西宮市健康フェア―：女性の健康相談 姫路赤十字看護専門学校：「マタニティサイクルにある人々の看護」　講師
今後の課題
１．次年度に引き続き授業計画を見直し、年間を通して効果的な授業が実践できる。 2．今年度は,研究のデーターの整理を行い分析を行う。

教員名	玉村 由紀	所属学科等	看護学科通信制過程	職名	講師
委嘱委員・職務	臨地実習委員・個人所法保護委員・課程内入試委員 兵庫県看護協会連絡係				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	老年看護学概論・老年援助論・老年看護学演習・老年看護学実習 災害時の歯科衛生士の働き（２コマ）				
担当科目コマ数	授業時間　210時間				
本年度の課題					
１．老年看護学概論スクーリング科目の教科書が、再改訂になっているため新たに資料を作り直しが必要となっている。 ２．　学生へのきめ細やかな支援、指導を継続し、受験生の広報につなげる。					
本年度の目標					

１．各科目の内容の精査をし、学生が理解しやすい授業をする。 ２．学生へのきめ細やかな支援、指導を行うことにより学生からの入試広報に繋げる。
主な活動内容
1）教育活動 1.スクーリング科目は内容を少し減らし、資料の修正はありできなかったが、少しゆっくり授業が進められるようにした。老年看護学演習のレポートは、学生の間では通りにくいと言われているが、資格取得後看護師として仕事をするうえで必要な視点を入れているつもりであるため、前年度通りの指導となった。老年看護学実習では、評価にルーブリックをとりいれた。実習記録の書き方の説明を丁寧にしたこと、ルーブリックを取り入れたことで、全体として評価は高くなった。 2.学生への支援は継続しているが、今年度の受験生のびにはつながらなかった。地道な活動することで、今後の何らかの効果が見られると考える。 2）研究活動 研究テーマ： エンド・オブ・ライフケア 研究の現状：学会に参加し新しい方向が見えたが、その実施には至っていない。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3）社会的活動等 なし
今後の課題
1.全入状態であるため、学生の学力等のレベルの差が大きく、色々なレベルの学生をどの様に指導していくのかを検討する必要があると考える。また、教育内容が国家試験合格と繋がるよう指導を考えることも必要と考える。 2.今後受験資格の就業年限が５年となった時は受験生が増える可能性が一時的である。増加は在校生を大切に育てることが、受験生の増加につながると考える。

教員名	西森 有理子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	SD委員・図書紀要委員・通信教育委員・CCN臨地実習委員				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	在宅看護概論、在宅援助論、在宅看護論演習、在宅看護論実習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
1）初めて学ぶ「在宅看護論」に興味をもって学べるよう、教材や発問を工夫する。 2）委嘱された委員会での責務を果たす。					
本年度の目標					
1）在宅での看護がイメージできるように教材の工夫、発問を工夫する。 2）委嘱された委員会での責務を果たす。					
主な活動内容					

1）教育活動
目標1：在宅看護概論の授業では、DVDの活用や教員の体験を伝え在宅看護をイメージできるように努めた。講義資料はグラフ・図は大きくし重要な点はマークを付けるなど工夫を行った。実習スクーリングの事例検討では、学生の思考を整理しやすいようにワークシートの活用を図った。多職種連携の実際についてDVDで紹介するなど視聴覚教材を活用した。発問では、学生が主体的に考えられることを意識して、介護保険法をより身近に理解できるよう日常的に関わる患者さんがどのようにして在宅復帰するのか 施設別に紹介してもらうなど学生がイメージできるように努めた。授業評価における「授業方法」の項目は、昨年度4.2から今年度4.5と改善につながったことからも授業方法の工夫が反映されたと考える。
目標2：SD委員・図書紀要委員として役割を果たせるように努めた。公開授業見学など積極的に行った（5回見学）CCN臨地実習委員として、今年度から臨地実習評価にルーブリック評価が導入されることに伴い、実施前の意思統一や実施後の意見交流を行い次年度の実習評価表の見直しに繋げることができた。CCN教務担当（副）として、学生の学修進捗状況の把握に努め学習支援を行った。
2）研究活動
研究テーマ：教材研究－通信制課程学生の在宅死に対する看護の役割認識の変容
研究の現状：2019年度受講した学生のレポートを整理中
　学会発表（　0 回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）
3）社会的活動等
・ 特養かわち野里ながせボランティア　　・ ユニセフマンスリーサポート
・ コープおおさか病院２年目職員研修講師

今後の課題
1）わかりやすい授業の工夫に努める。
2）学生の状況や学修の節目に応じた学習支援を実施する。
3）委嘱された委員会での責務を果たす。

教員名	松原　渉	所属学科等	通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会、広報委員会、危機管理（災害）委員会、看護学科通信制課程　臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	精神看護学				
担当科目コマ数	授業時間　180時間				

本年度の課題
・学生が課題に対して主体的参加できる授業方法を工夫する。
・研究テーマを論文にまとめることができる。
・委嘱されている委員の各役割を報告、連絡、相談しながら遂行することができる。

本年度の目標

・教育活動における授業内容を精選するとともに授業方法の工夫をおこなう
・熟練した共同研究者のご指導のもとで共著の研究報告を発表する
・入試委員、広報委員、危機管理委員の役割と看護協会への参与を滞りなく努める

主な活動内容

1）教育活動

精神看護学概論の授業内容を精選し授業方法も見直しをしたが、相変わらず授業内容が多岐にわたることもありわかりづらいという評価であった。今後も研鑽を深めていく必要がある。精神看護学実習スクーリングは学生の得てきた情報をもとにして帰納的学習に貢献ができたと思う。

2）研究活動

研究テーマ：言葉の暴力を受けた精神科看護師の感情体験と対応に関する文献レビュー

研究の現状:共同研究者のご指導のもとでスムーズに論文にまとめることができ共著で神戸常盤大学紀要の総説に投稿済

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　1編）　著書（　0冊）

3）社会的活動等

兵庫県看護協会神戸西部支部教育委員会代表補佐として研修会や看護実践報告会の企画、運営等に参与する。

今後の課題

・学生がわかりやすいように反応をみながらの授業展開を心がける
・研究テーマを挙げて論文にまとめることができる。